

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局



(43) 国際公開日
2002 年 11 月 28 日 (28.11.2002)

PCT

(10) 国際公開番号
WO 02/094154 A1

- (51) 国際特許分類⁷: A61F 13/15
- (21) 国際出願番号: PCT/JP02/04890
- (22) 国際出願日: 2002 年 5 月 21 日 (21.05.2002)
- (25) 国際出願の言語: 日本語
- (26) 国際公開の言語: 日本語
- (30) 優先権データ:
特願2001-152403 2001 年 5 月 22 日 (22.05.2001) JP
特願2002-108594 2002 年 3 月 5 日 (05.03.2002) JP
- (71) 出願人 (米国を除く全ての指定国について): ユニ・チャーム株式会社 (UNI-CHARM CORPORATION) [JP/JP]; 〒799-0111 愛媛県 川之江市 金生町下分182番地 Ehime (JP).

(NODA,Yuki) [JP/JP]; 〒769-1602 香川県 三豊郡 豊浜町和田浜高須賀1531-7 ユニ・チャーム株式会社テクニカルセンター内 Kagawa (JP). 徳本 恵 (TOKU-MOTO,Megumi) [JP/JP]; 〒769-1602 香川県 三豊郡 豊浜町和田浜高須賀1531-7 ユニ・チャーム株式会社テクニカルセンター内 Kagawa (JP). 酒井 あかね (SAKAI,Akane) [JP/JP]; 〒769-1602 香川県 三豊郡 豊浜町和田浜高須賀1531-7 ユニ・チャーム株式会社テクニカルセンター内 Kagawa (JP).

(74) 代理人: 正林 真之, 外 (SHOBAYASHI,Masayuki et al.); 〒171-0022 東京都 豊島区 南池袋3丁目18番34号 池袋シティハイツ701 Tokyo (JP).

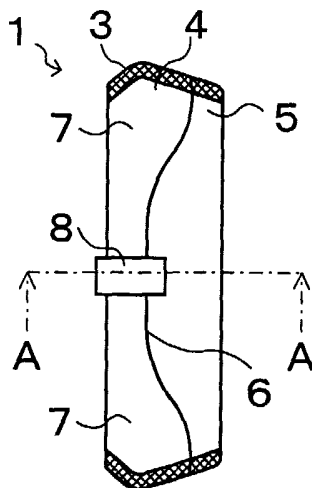
(81) 指定国 (国内): AE, AG, AL, AM, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BR, BY, BZ, CA, CH, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DK, DM, DZ, EC, EE, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, HR, HU, ID, IL, IN, IS, JP, KE, KG, KP, KR, KZ, LC, LK, LR, LS, LT, LU, LV, MA, MD, MG, MK, MN, MW, MX, MZ, NO, NZ, OM, PH, PL, PT, RO, RU, SD, SE, SG, SI, SK, SL, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VN, YU, ZA, ZM, ZW.

(84) 指定国 (広域): ARIPO 特許 (GH, GM, KE, LS, MW, MZ, SD, SL, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーラシア特許 (AM, AZ, BY, KG, KZ, MD, RU, TJ, TM), ヨーロッパ特許 (AT, BE, CH, CY, DE, DK, ES, FI, FR, GB, GR, IE, IT, LU, MC, NL, PT, SE, TR), OAPI 特許 (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

[続葉有]

(54) Title: INTERLABIAL PAD INDIVIDUAL PACKAGING VESSEL, AND INDIVIDUAL PACKAGING BODY

(54) 発明の名称: 陰唇間パッド個別包装容器及び個別包装体



(57) Abstract: The invention relates to an interlabial pad individual packaging vessel adapted to facilitate the opening operation, and to a packaging body made of this packaging vessel, and provides an interlabial pad individual packaging body with an interlabial pad wrapped in a packaging vessel, adapted to facilitate smooth taking-out of the wrapped interlabial pad from the packaging vessel. To open a packaging vessel (3), a region (7) is secured for the wearer to hold a packaging vessel (3), thereby facilitating the opening operation. Further, the individual packaging body (1) is arranged so that the packaging vessel (3) and the interlabial pad are simultaneously held in order to indirectly hold the wrapped interlabial pad, also, when holding the packaging body (1), thereby making sanitary opening operation possible.

[続葉有]



WO 02/094154 A1



添付公開書類：
— 国際調査報告書

2文字コード及び他の略語については、定期発行される各PCTガゼットの巻頭に掲載されている「コードと略語のガイダンスノート」を参照。

(57) 要約:

本発明は、開封操作が容易な陰唇間パッド個別包装用の包装容器及びこの包装容器から成る包装体に関し、包装容器からそれに内包されている陰唇間パッドのスムーズな取り出しを可能とする包装容器に陰唇間パッドを内包した陰唇間パッド個別包装体を提供する。

包装容器（3）を開封するために、着用者が包装容器（3）を保持する領域（7）を確保することにより、開封操作を簡易なものとした。更に、包装体（1）を保持するとき内包される陰唇間パッドも間接的に保持するように、包装容器3と陰唇間パッドが同時に掴まれるようにすることにより、衛生的な開封操作を可能とした個別包装体（1）とした。

明細書

陰唇間パッド個別包装容器及び個別包装体

5 発明の背景

技術分野

本発明は、開封操作が容易な陰唇間パッド個別包装用の包装容器及びこの包装容器から成る包装体に関する。

10 関連技術

従来より、女性用生理用品としては、生理用ナプキン、タンポンが一般的に用いられている。ここで、生理用ナプキンについては、膣口付近への密着性の乏しさゆえに生じる隙間からの経血のモレを防ぐべく、多大な努力が払われている。また、タンポンにおいて、その物品の属性に起因して、着用時の異物感や不快感、膣内への装着困難性を生じることから、これらを除くために多大な努力がなされている。

このような状況下、生理用ナプキンやタンポンの中間に位置する生理用品として、近年、陰唇間パッドなる生理用品が注目されるようになってきている。

この陰唇間パッドは、女性の陰唇間に挟み込んで装着するものであり、生理用ナプキンよりも身体との密着性が高いために経血のモレが生じにくく、また、膣内に挿入するタンポンに比べて着用時の心理抵抗も低いという特徴を有している。

25 ここで、かかる陰唇間パッドについては、これを包装するために用いられる部材についての開発や整備が十分ではない。

2

この点、陰唇間パッドを装着する際には慌しい状況下で行なうことが多いことから、陰唇間パッドを内包する包装容器を開封して陰唇間パッドを取り出すという一連の操作が迅速かつ容易に行なえることが好ましい。

- 5 また、他の一般的に使用される生理用品である生理用ナプキンやライナーなどは、下着等に止着するために、衣服面側において粘着剤などが塗布されており、内包される包装容器に対してこの粘着剤がリケイ処理した包装材料の内面と直接、若しくは、リケイ処理されたシートを介して貼り合わされたりして、包装材料と
- 10 一体化した状態で包装容器に内包されているのが一般的である。

- これに対し、陰唇間パッドは陰唇に挟み込んで固定するために、反身体側面においても粘着剤が塗布されていないのが一般的であり、陰唇間製品と包装材料が一体化した状態では内包されていないために、包装容器を開封した際にその衝撃で包装容器からこ
- 15 ぼれやすく、このような事態が生じないように気を配りながら開封操作を行なうのでは、迅速な装着作業を妨げることにものなる。

発明の開示

- 20 本発明は、以上のような課題に鑑みてなされたものであり、その目的は、包装容器からそれに内包されている陰唇間パッドのスムーズな取り出しを可能とする包装容器に陰唇間パッドを内包した陰唇間パッド個別包装体を提供することにある。

- 上記のような課題を解決するために、本発明においては、包装
- 25 容器を開封するために、着用者が包装容器を保持する領域を確保することにより、開封操作を簡易なものとすることを特徴とする。

更に、本発明においては、包装体を保持するときに内包される陰唇間パッドも間接的に保持するように、包装容器と陰唇間パッドが同時に掴まれるようにすることにより、衛生的な開封操作を可能とした個別包装体としたことをも特徴とする。

5 より具体的には、本発明は、以下のようなものを提供する。

(1) 陰唇間に挟み込んで装着される陰唇間パッドをそれぞれ個別に包装するための個別包装容器であって、前記陰唇間パッドを収容する本体部と、この本体部の一部を覆い、その終辺部分が個別包装容器を開封するための開封部位を形成している蓋部
10 と、を備え、前記蓋部の形状は、個別包装容器の開封の際に当該個別包装容器が掴まれる場所が除かれた形状であり、着用者の指当てがなされる一定の領域が確保されるものであることを特徴とする個別包装容器。

本発明によれば、未使用の陰唇間パッドを包装する個別包装容器（以下、単に包装容器と称す）において、陰唇間パッドを収納
15 する本体部の開口を覆う蓋部を開けて包装容器を開封するとき、包装体を保持している着用者の指がこの開封作業を妨げないようになっている。即ち、着用者が包装容器を保持する指が蓋部を押さえないように、蓋部の形状が本体部に当てている指を避ける形状となっている。このため、着用者は最初に包装体を保持した状態のまま、即ち、開封作業を行なうため包装体を持ち直したりすることなく、包装容器を開封することができる。この結果、開封操作を迅速かつスムーズに行なうことが可能となっている。

(2) 前記蓋部の前記終辺部分は、湾曲しているか、若しくは、個別包装容器の底辺に対して傾斜しているものであることを
25 特徴とする(1)記載の個別包装容器。

本発明によれば、未使用の陰唇間パッドを包装する個別包装容器（以下、単に包装容器と称す）において、蓋部の縁が、予め湾曲又は傾斜させられている。このため、着用者が包装体を保持するときに、蓋部が存在しない領域に指を当てて包装体を保持する
5 ように着用者を仕向けることができるようになっている。

蓋部の縁が湾曲している場合としては、単に着用者の指が当たる部分をくりぬくようにして湾曲させるほか、略M状に、すなわち縁部の終辺の中心部分を突出するようにし、他の部分を陰唇間パッドの封入口に向かって湾曲させるようにすることができる。
10 このようにすることにより、包装容器を開封する際、前述の突出部分を保持して包装容器を開封することができる。しかも、この部分を着用者が、指で挟持して蓋部を開封させる箇所であると瞬時に判断できるので、開封操作の迅速化を一層図ることができる。更に、着用者が蓋部に指があたらないようにして包装体を保持する箇所が2箇所存することになるため、着用者の利き手が右手左手のいずれであっても、迅速な開封操作を担保することができる
15 ようになっている。

一方、蓋部の縁が傾斜している場合には、蓋部と本体部とがともに存して開封部が形成されている面においては、包装容器の一方側部から他方側部に向かうにつれて、本体部の露出比率が徐々に少なくなっていくこととなる。このため、着用者が露出の多い面を持つことにより、そのままの状態ですべてを開封することができる。
20

（3） 陰唇間に挟み込んで装着される陰唇間パッドをそれぞれ個別に包装するための個別包装容器であって、前記陰唇間パッドを収容する本体部と、この本体部の一部を覆い、その終辺部分
25

5

が個別包装容器を開封するための開封部位を形成している蓋部と、を備え、前記本体部の表面には、個別包装容器の開封の際に当該個別包装容器を掴むための場所についての指示がなされているものであることを特徴とする個別包装容器。

5 本発明によれば、個別包装容器（以下、単に包装容器と称す）を開封するために、着用者が包装体を保持するための場所が明らかに示されている。このため、着用者はなんら思考を動かすことなく、自然に開封作業に好適な箇所に指を当てて包装体を保持することができる。

10 （４） 前記指示は視覚的、若しくは、触覚的なものであることを特徴とする（３）記載の個別包装容器。

本発明によれば、着用者が包装体を保持するための場所が、着用者が一目して、あるいは、触ることによって、これを明確に把握することができるようになっている。

15 このようなものとしては、例えば、指の形状にかたどったイラストや模様を施す、指を当てる箇所にエンボス加工を施す、などの方法を採用することができる。

（５） 陰唇間に挟み込んで装着される陰唇間パッドをそれぞれ個別に包装するための個別包装容器であって、前記陰唇間パッドを収容する本体部と、この本体部の一部に重畳し、その終辺部分が個別包装容器を開封するための開封部位を形成している蓋部と、を備え、少なくとも前記本体部の内面の表面には、微細な突起が施されていることを特徴とする個別包装容器。

20

本発明によれば、個別包装容器（以下、単に包装容器と称す）の内側に微細な突起が施されている。このため、未使用の陰唇間パッドを取り出した後の包装容器に使用済み陰唇間パッドを収

25

納したときに、経血が包装容器の内側にべったりと付着することが防止され、廃棄するときの包装容器の外観が清潔なものとなっている。

- (6) 前記個別包装容器は、一連の包装用シートが巻かれたものから成り、前記蓋部は、前記包装用シートの両端部と当該両端部の近傍同士が重畳されたことによって形成された重畳部からなり、前記開封部位は前記包装用シートの一方端部からなり、前記個別包装容器は、当該開封部位から前記重畳部の重畳状態が解かれることにより開封が行なわれるものであることを特徴とする(1)から(5)いずれか記載の個別包装容器。

- 本発明によれば、個別包装容器(以下、単に包装容器と称す)は一枚のシートで形成され、このシートで未使用の陰唇間パッドを巻き込むように折り畳まれることにより包装体を形成している。そして、シートの一方端部は包装容器の開封部となる開封部位を形成するように、包装容器の片面側において前記シートの一方端部がシートの他の部分に重なるようになっており、この重なっている部分の上面に位置するシートの一方端部とその周辺が蓋部となり、重なっている部分以外のところが、着用者が包装体を保持するための保持領域となるのである。

- そして、本発明においては、包装容器は一枚のシートを包装材料として構成しているため、複数の包装材料を用いて陰唇間パッドを包装する場合と比較して、製造工程が容易となっている。しかも、複数の包装材料のそれぞれの周縁部全体を製造工程中に貼り合わせるなどして密閉する工程が不要となるため、包装容器内に陰唇間パッドを内包するにあたり、陰唇間パッドの周縁部と包装容器との間に隙間が生じにくくなり、包装体全体がコンパクト

なものとなり、携帯時における利便性を高めることができる。

(7) 前記個別包装容器は、前記本体部において、陰唇間パッドを封入するための開口部分と、その反対側において底辺部分とを有し、当該底辺部位から前記開封部分に向かうにつれて本体部の寸法が徐々に小さくなっていくものであることを特徴とする(6)記載の個別包装容器。

本発明によれば、個別包装容器(以下、単に包装容器と称す)の本体部において、開口部分の長さ寸法が底辺部分の長さ寸法よりも短くなっている。即ち、包装容器の本体部の開封方向の長さ
10 と開口部分の長さとの比率が、本体部の開封方向の長さ
と本体部の底辺の長さとの比率よりも少なくなっている。このため、開口部分においては本体部の両側部間の寸法が狭まることとなり、着用者が開封のために蓋部を挟持した指の開封方向への力を開口部の両端部まで伝達させやすくなる。この結果、包装容器をシー
15 ト状に展開して開封するときにおいて、本体部の両側部の接合部分をはがす時間を短縮でき、この結果、包装容器の開封時間を短縮することが可能となり、開封操作の迅速化・容易化を図ることができる。

(8) 前記個別包装容器は、前記蓋部と本体部とが接する部分において再シール可能な封止手段が設けられていることを特徴とする(1)から(7)いずれか記載の個別包装容器。

本発明によれば、個別包装容器(以下、単に包装容器と称す)を開封する部分において再シール可能な封止手段が設けられている。このため、包装容器を使用済み陰唇間パッドを封入して廃棄するの
25 のに使用する際、かかる封止手段で包装容器の開封部を止着することにより、使用済み陰唇間パッドを包装容器内に封印す

ることができる。このため、包装体内に封印した使用済み陰唇間パッドを汚物入れに破棄する行為中に包装体が展開してしまい、吸収した経血がしみ出して指に付着する、陰唇間パッドが包装容器から飛び出して経血が手につく、更には陰唇間パッドのみが床などに落ちてしまうといった危険性を防止することが可能となり、衛生的に使用済み陰唇間パッドを汚物入れに廃棄することができるのである。

このような封止手段には、着色、若しくはイラスト印刷などを施すことにより、着用者が瞬時に指で挟持して開封する開封部を容易に認識することができるようになり、開封操作をより一層スムーズなものとすることができる。

上述したような封止手段としては、一方の面が再剥離可能な粘着剤が塗布された帯状部材が例として挙げられ、具体的にはフィルム層の片面に粘着剤が塗布されたもの、水洗性を考慮した場合はティッシュに片側に粘着剤を塗布したもの等、公知のものを使用することができる。別の封止手段としては、マジックテープ（登録商標）を取り付ける、雄部と雌部とを互いに係合させるチャックを取り付ける等がある。

このような帯状部材を設けない場合においては、蓋部の縁に連続もしくは間欠に粘着剤を塗布しておくことにより、携帯する際に開封部からゴミなどが包装体内部に入りにくくすることができる、これにより陰唇間パッドを衛生的に保管することができる。なお、粘着剤の塗布位置を開封口から開封方向へ1～10mmの位置に塗布することにより開封口が粘着剤を塗布されていない領域であるドライエッジを有することとなるので、かかるドライエッジを摘まむことにより、包装容器を容易に開封することが

できる。粘着剤は再剥離可能なホットメルト型粘着剤から限定することなく選ばれ、面状・縞状・螺旋状・ドット状等公知の塗布パターンで塗布される。

（９） 前記封止手段は、ドライエッジ部を備え、当該ドライエッジ部が前記個別包装容器の底辺よりも突出していることを特徴とする（８）記載の個別包装容器。

本発明によれば、包装容器の蓋部に設けられた封止手段の一端部が、粘着剤が塗布されていないドライエッジ部となっており、しかもこのドライエッジ部が包装容器の底辺よりも突出しており、完全に包装材料から離間している。このため、着用者が開封のために指で挟持する位置を容易に認識できるだけのみならず、容易に指でかかるドライエッジ部を摘まんで開封方向にひっぱることができる。この結果、包装容器の開封時間を短縮することが可能となり、開封操作のより一層の迅速化・容易化を図ることが可能となる。

（１０） 陰唇間に挟み込んで装着される陰唇間パッドと、この陰唇間パッドをそれぞれ個別に包装するための個別包装容器と、から成り、前記陰唇間パッドが前記個別包装容器に包装されたものから成る包装体であって、前記個別包装容器内における陰唇間パッドが、前記個別包装容器を掴んだときに、前記陰唇間パッドの少なくとも一部が同時に掴まれる位置に配置されているものであることを特徴とする包装体。

本発明によれば、包装体を保持したときに、その保持した指が個別包装容器（以下、単に包装容器と称す）とこれに内包される陰唇間パッドとを同時に掴むことができるようになっている。このため、包装体を保持している手とは反対側の手の指で開封部位

を挟持し、包装容器を開封しても、開封した衝撃で内包していた陰唇間パッドが飛び出すことを防止でき、衛生的な開封操作が可能となっている。

この点、一連のシートを折り畳み、この折り畳み部分を軸として一方の内面を他方の内面と向き合わせ、更に折り畳み部分以外の周縁をシールし、このシールした少なくとも一辺を再シール可能な再シール部として陰唇間パッドの出し入れ口とした個袋からなる包装容器が、米国特許第 6 1 3 1 7 3 6 号において開示されている。この包装容器によれば、装着時に陰唇間製品が身体側に接する面に触れずに取り出すことが可能であるので、衛生的な状態のまま陰唇間製品を陰唇間へ嵌装させることができる。

しかしながら、このような従来例にあつては、第 2 1 図で示されているように、両手の各々の指で互いの包装容器の開封口近傍を挟持し、開封口の再シール部を剥離して包装容器を開封するため、開封時において包装容器に内包されている陰唇間製品は包装容器を介して指で固定されていないこととなる。このため、開封した衝撃で内包されていた陰唇間製品が包装容器から飛び出し、指に触れてしまったり、更には床などに落ちてしまったりして、陰唇間製品が汚れてしまう危険性が極めて高い。

また、第 2 2 図に示されるように、ミシン目などを設け、これを引き裂いて開封する包装容器においても、着用者によっては急いで新しい陰唇間製品に取り替えるために、指の力の伝達性を良くして容易にミシン目を引き裂けるように、開封口付近のミシン目を境にして両手の各々の指で包装体を挟持することがあるが、この挟持した部分において陰唇間製品が存在しないために、やはり開封した衝撃で包装容器から陰唇間製品が飛び出してしま

危険性がある。

これに対し、本発明に係る包装体は、保持した際に包装容器を介して陰唇間パッドをも保持されるように包装容器内に陰唇間パッドが内包されているため、着用者は特段の注意を要することなく、陰唇間パッドを衛生的に取り出すことが可能となっている。

なお、本発明においては、包装容器の開封方法は、開封時に陰唇間パッドが飛び出さないように包装容器に内に陰唇間パッドが位置されておれば特に限定されるものではなく、例えば切り裂き部と非切り裂き部とが交互に配置されているミシン目のようなものや、開封部の開封部分、つまり開封口に切欠部分を設けて個別包装体を切り裂くきっかけとするようなものとしてもよい。

開封部をミシン目により構成した場合では、切り裂き部を長さ0.5～5mm、幅を最大3mmの範囲とし、非切り裂き部を長さ0.5～3mmとすることが好ましい。これにより着用者の切り裂き方向が開封部から逸れないように誘導することができるとともに、ゴミなどが開封部から個別包装体内部へと進入してくることも防止できる。

開封部はその切り裂きをより容易なものとするために、個別包装体の厚み方向を貫通した状態とすることが望ましい。

(11) 前記個別包装容器は、(1)から(9)いずれか記載の個別包装容器であることを特徴とする(10)記載の包装体。

本発明によれば、陰唇間パッドが迅速な開封操作を可能とする個別包装容器等に内包されている。このため、一層開封操作を迅速かつスムーズなものとすることができる。

(12) 前記陰唇間パッド及び前記個別包装容器は長手方向と短手方向とを有する実質上縦長の形状を成すものであり、当該

個別包装容器の前記長手方向の寸法は、前記陰唇間パッドの前記長手方向の寸法に対して105～130%の範囲のものであることを特徴とする(11)記載の包装体。

5 本発明によれば、個別包装容器(以下、単に包装容器と称す)の長手方向の寸法が、内包する陰唇間パッドの長手方向の寸法に対し、陰唇間パッドが包装容器内で不必要に泳いでしまったりすることのない寸法となっている。

ここで、上述の寸法範囲よりも大きいと、開封部付近に陰唇間パッドが位置しにくくなり、包装体を指で保持した際、包装材料
10 を介して内包されている陰唇間パッドを間接的に挟持できなくなり、開封した衝撃で内包されている陰唇間パッドが飛び出す危険性が高まってしまう。

一方、この範囲より小さいと、開封部を開封すると同時に内包されている陰唇間パッドを引き裂いてしまう等、陰唇間パッドが
15 破損してしまう危険性があり、また、陰唇間パッドが包装容器から取り出すためのスペースが十分でなくスムーズな取り出しが困難となり、開封操作に煩雑さを与えてしまう。

この点、本発明における寸法に設定することにより、上述のような不都合がなく迅速かつ容易に包装容器の開封及び陰唇間パ
20 ッドの取り出しといった一連の操作を行うことができる。

(13) 前記個別包装容器の前記短手方向の寸法は、前記陰唇間パッドの前記短手方向の寸法に対して105～130%の範囲に設定されているものであることを特徴とする(10)又は(11)記載の包装体。

25 本発明によれば、個別包装容器(以下、単に包装容器と称す)の短手方向の寸法が内包する陰唇間パッドの長手方向の寸法に

対し、105～130%の範囲に設定されている。

ここで、上述の寸法範囲よりも大きいと、開封部付近に陰唇間パッドが位置しにくくなり、包装体を指で保持した際、包装材料を介して内包されている陰唇間パッドを間接的に挟持できなくなり、開封した衝撃で内包されている陰唇間パッドが飛び出す危険性が高まってしまう。

一方、この範囲より小さいと、開封部を開封すると同時に内包されている陰唇間パッドを引き裂いてしまう等、陰唇間パッドが破損してしまう危険性があり、また、陰唇間パッドを包装容器から取り出すためのスペースが十分でなく、スムーズな取り出しが困難となり、開封操作に煩雑さを与えてしまう。

この点、本発明における寸法に設定することにより、上述のような不都合がなく迅速かつ容易に包装容器の開封及び陰唇間パッドの取り出しといった一連の操作を行なうことができる。

(14) 陰唇間に挟み込んで装着される陰唇間パッドをそれぞれ個別に包装するための個別包装容器であって、前記陰唇間パッドを収容する本体部と、この本体部の一部に重畳し、その終辺部分が個別包装容器を開封するための開封部位を形成している蓋部と、を備え、前記蓋部と前記本体部とは、個別包装容器の開封方向の垂直方向における両端部において互いに軽接合されており、当該蓋部の形状は、前記開封部位の一部を頂点として前記本体部の両側部に向かって広がる角状形状であることを特徴とする個別包装容器。

ここで、「角状形状」というのは、何らかの形で大凡の角度を備えているようなものであればよく、厳密な「角」でなくてもよいという意味であり、例えば辺の部分が曲線であったりというよ

うな変形例も含まれる。

また、「軽接合」というのは、女性の操作によって難なく剥離させることが可能な状態で接合されていることを意味する。本発明に係る個別包装容器において、蓋部と本体部は、女性の操作によ

5 よって難なく剥離させることができる。

上記の（１４）のような構成によれば、開封部位が直線ではなく、所定の角度を有している「角」であるため、蓋部の開封部位が摘まみ易く、本体部に重畳している蓋部を容易に摘まみ上げることができるようになる。

10 （１５） 陰唇間に挟み込んで装着される陰唇間パッドをそれぞれ個別に包装するための個別包装容器であって、前記陰唇間パッドを収容する本体部と、この本体部の一部に重畳し、その終辺部分が個別包装容器を開封するための開封部位を形成している蓋部と、を備え、前記蓋部と前記本体部とは、個別包装容器の開

15 封方向の垂直方向における両端部において互いに軽接合されており、前記軽接合されている両端部の軽接合ラインと前記蓋部の軽接合されていない非接合縁ラインとの間に形成される角度であって、前記蓋部でない場所に形成される角度が鋭角であることを特徴とする個別包装容器。

20 このような構成によれば、本体部に重畳している蓋部が摘まみ上げられた後、容器開封のためにその蓋部がそのまま引き上げられたときに、引き上げ向きの内側における軽接合ラインと非接合縁ラインの間の角度が鋭角となり、そこに力が集中するため、開封操作がスムーズに行われるようになる。即ち、このような構成

25 によれば、開封方向へ開封部を開封する際、開封部を形成する包装材料の前後両端部の内側が鋭角となっているので、着用者が開

15

封のために開封部を挟持した指の開封方向への力を上記鋭角部分に十分に集中させることができるため、この結果として、一方向（開封方向）への力に対して容易に剥離可能となり、開封操作の迅速化・容易化を図ることができるようになるのである。

- 5 （１６） 前記軽接合されている両端部の軽接合ラインと前記蓋部の軽接合されていない非接合縁ラインとの間に形成される角度であって、前記蓋部でない場所に形成される角度が鋭角であることを特徴とする（１４）記載の個別包装容器。

この（１６）は、上記の（１４）と（１５）の両方の構成を備
10 えていることから、角となっている蓋部の開封部位が摘まみ易く、本体部に重畳している蓋部を容易に摘まみ上げることができることに加え、当該蓋部が摘まみ上げられた後、容器開封のためにその蓋部がそのまま引き上げられたときに、引き上げ向きの内側における軽接合ラインと非接合縁ラインの間の角度が鋭角とな
15 り、そこに力が集中するため、開封操作がスムーズに行われるようになる。

図面の簡単な説明

第１図は、本発明の好適な実施形態に係る包装体を示す図であ
20 る。

第２図は、第１図に示す包装体のＡ－Ａ視断面図である。

第３図は、包装体の包装容器を構成するシートの説明を示す図である。

第４図は、包装容器の開封状態を示す図である。

25 第５図は、包装体に内包されている陰唇間パッドを示す図である。

第 6 図は、包装体の展開図である。

第 7 図は、使用済み陰唇間パッドを廃棄する手順を示す工程図である。

第 8 図は、本発明の好適な実施形態に係る包装体における蓋部の輪郭形状の変形例（長方形型）を示す図である。

第 9 図は、第 8 図に係る包装体の開封動作を説明するための図である。

第 10 図は、本発明の好適な実施形態に係る包装体における蓋部の輪郭形状の変形例（斜辺型）を示す図である。

第 11 図は、本発明の好適な実施形態に係る包装体における蓋部の輪郭形状の変形例（三角形型）を示す図である。

第 12 図は、本発明の好適な実施形態に係る包装体における蓋部の輪郭形状の変形例（カモメの翼型）を示す図である。

第 13 図は、本発明の好適な実施形態に係る包装体における本体部の形状の変形例（富士山型）を示す図である。

第 14 図は、包装体における本体部に止着テープ（封止手段）が設けられている態様を示す図である。

第 15 図は、本発明の好適な実施形態に係る包装体を開封する際の動作を説明するための図である。

第 16 図は、本発明の好適な実施形態に係る包装体において、包装容器の表面上に設けられた指当て領域について説明をするための図である。

第 17 図は、本発明の好適な実施形態に係る包装体において、包装容器の表面上に設けられた指当て領域について説明をするための図である。

第 18 図は、本発明の好適な実施形態に係る包装体において、

包装容器の表面上に設けられた指当て領域（エンボス加工を施したもの）について説明をするための図である。

第 19 図は、本発明に係る個別包装容器に施された開封のし易さ向上のための工夫を説明するための図であり、本発明に係る開
5 封のし易さ向上のための工夫がなされている個別包装容器を示した図である。

第 20 図は、本発明に係る個別包装容器に施された開封のし易さ向上のための工夫を説明するための図であり、本発明に係る開
封のし易さ向上のための工夫がなされていない比較例を示した
10 図である。

第 21 図は、従来の陰唇間パッドの包装体を開封する様子を示す図である。

第 22 図は、従来の包装体における陰唇間パッドの収容状態を示す図である。

15

発明を実施するための最良の形態

次に、本発明の実施形態について、図を参照しつつ説明する。

〔基本的構成〕

まず、本実施形態の個別包装容器（以下、単に包装容器と称す）
20 及び包装体の構造について説明をする。第 1 図は、本実施形態に係る包装体 1 を示す図であり、第 2 図は、第 1 図に示す包装体 1 の A-A 視断面図であり、第 3 図は、包装体 1 の包装容器 3 を構成するシート 2 の説明を示す図であり、第 4 図は、包装容器 3 の開封状態を示す図であり、第 5 図は、包装体 1 に内包されている
25 陰唇間パッド 10 を示す図であり、第 6 図は、包装体 1 の展開図であり、第 7 図は、使用済み陰唇間パッド 20 を廃棄する手順を

示す工程図である。

< 包装体の構造 >

第 1 図に示すように、包装体 1 は、包装容器 3 とこれに内包される未使用の陰唇間パッド（図示せず）とから成り、包装容器 3 は、陰唇間パッドを収納するための本体部 4 と、この本体部 4 を覆う蓋部 5 を有する。蓋部 5 の縁は、開封部 6 を形成する開封部位ともなるものであり、その形状は湾曲しているため、着用者が開封するときに本体部 4 を保持するために指を当てる指当て領域 7 が形成され、この領域 7 に指を当てて包装体 1 を保持することにより、本体部 4 と蓋部とを同時に押さえてしまうことが防止される。

< 包装容器の構造 >

包装容器 5 は、第 2 図に示すように、長手方向を中心軸として折り畳まれた陰唇間パッド 10 を包むように巻いているシート 2 により形成されている。

このシート 2 は、第 3 図に示すように、片面 2 B はフラットであるが、他方の面 2 A においては微細な凸が施されている。そして、第 4 図に示すように、かかる凸が施された面 2 A が内側になるようにしてシート 2 を折り畳んで包装容器 3 を形成することにより、包装容器 3 に使用済み陰唇間パッドを内包させた場合に、経血が包装容器の内側にべったりと付いてしまうという事態を回避することができる。

第 2 図に示すように、シート 2 の重なり合っている部分において開封部 6 が形成されている。この開封部 6 は止着テープ 8 により封止されており、止着テープ 8 の下面は、第 4 図に示すように再貼着可能な粘着剤が塗布された粘着部 8 a とかかる粘着剤が

塗布されていないドライエッジ部 8 b が存している。このドライエッジ部 8 b は、第 1 図に示すように包装容器 3 が開封される前においては包装容器 3 の底辺よりも突出しているため、着用者が止着テープ 8 を摘まみやすいようになっている。

- 5 この止着テープ 8 により、蓋部 5 と本体部 4 とが固定されるため、開封部 6 の開封を防ぐための接合をしないことも可能であるが、蓋部 4 の縁の内側に施す再剥離可能な接合を施して、接合強度を高めることもできる。

< 陰唇間パッド >

- 10 第 5 図に示すように、陰唇間パッド 10 は、ミニシート片 14 が取り付けられた反身体側面 12 が内側になるようにして長手方向を中心軸として半分に折り畳まれている。このため、包装容器 3 を開封したときに、ミニシート片 14 を即座に目視することができ、このミニシート片 14 と陰唇間パッド 10 の反身体側面
- 15 12 との間に形成される指挿入用口 15 へ指を挿入し、即座に陰唇間パッド 10 を包装容器 3 から取り出すことが可能となっている。この結果、装着準備を煩雑なものとしなく、しかも、装着時に陰唇内壁と直接接合する陰唇間パッド 10 の身体面側面 11 と指とが触れることがないため、陰唇間パッド 10 の身体
- 20 側面 11 を衛生的に保ったまま陰唇間に装着することが可能となる。

- なお、本実施形態においては、陰唇間パッド 10 の形態は半型となっているが、包装するためにこの陰唇間パッド 10 を長手方向中心線にほぼ沿って折り畳んだ状態、つまり略半月状の状態の
- 25 形態に合わせて包装容器 3 が設定されている。このため、包装体 1 を携帯する際のコンパクト性が高められており、更には携帯中

の衝撃により包装容器 3 内で陰唇間パッド 10 が過剰に動いてしまうことを防止し、陰唇間パッド 10 が破損してしまうことを防止している。

< 開封状態 >

5 包装容器 3 を開封して陰唇間パッド 10 を取り出すにあたっては、第 6 図の (a) に示す包装体 1 を第 6 図の (b) に示すように左手で掴みながら、右手で止着テープ 8 を摘まんでこれを外側にひっぱるようにして開封し、次に、第 6 図の (c) に示すように、陰唇間パッド 10 の指挿入口 15 に指を挿入し、その状態
10 のまま右手を動かすことにより第 6 図の (d) に示すように陰唇間パッド 10 を取り出す。この過程において、包装体 1 を摘まんでいる指は、包装容器 3 とその中に内包されている陰唇間パッド 10 をも同時に摘まんでいるため、開封時において陰唇間パッド 10 が飛び出てしまうことが防止されている。

15 本実施形態においては本体部 5 の両側部は、内包する陰唇間パッド 10 と重ならないようにして再剥離可能に接合されている。このため、第 7 図の (a) に示すように、未使用の陰唇間パッド 10 を取り出した後は、第 7 図の (b) に示すように包装容器 3 を一枚の平坦状のシート 2 に完全に展開させることができる。こ
20 こで、シート 2 の一方面 2A には微細な凸が施されていることから、第 7 図の (c) に示すように、この面 2A に使用済み陰唇間パッド 20 を載せ、第 7 図の (d) に示すようにシート 2 でくるみ、第 7 図の (e) に示すようにコンパクトな状態として、第 7 図の (f) に示すようにそのまま汚物入れに廃棄する。

25 [蓋部の輪郭の他の形状]

次に、包装容器の蓋部の輪郭形状の他の形態について説明する。

第 8 図から第 12 図は、蓋部の輪郭形状の変形例を示すものである。

本発明においては、蓋部の縁の輪郭は、本体部を保持する着用者の指を避けるようなものであればよいことから、上述のような略 M 状以外の形状とすることもできる。例えば、第 8 図に示す包装容器 23 のように、蓋部 25 を比較的短くすることにより、包装容器 23 を開封するにあたって、第 9 図の (a) に示すように開封口 26 よりも下の領域を指当て領域に指を当てて本体部 25 を保持するように着用者を仕向けることが可能となる。このため、第 9 図の (b) に示すように、包装容器 23 を開封するにあたって、包装容器 23 を持ち替えることなくスムーズに開封作業を行なうことができる。

また、第 10 図に示す包装容器 33 のように、蓋部 35 の輪郭を斜めになるようにし、本体部 34 の露出部分が大きい部分を指当て領域 37 とすることもできる。

そして、第 11 図に示す包装容器 43 のように、蓋部 45 の輪郭を V 状とすることもでき、この場合には、第 10 図と異なり、指当て領域 47 が 2 箇所設けられることとなる。

また、第 12 図に示す包装容器 53 のように、蓋部 55 の輪郭を略 M 状とすることも可能である。この場合にも、指当て領域 57 は 2 箇所設けられることとなる。

[本体部の形状]

本体部の形状は、単に長方形とすのほか、第 13 図に示すように包装容器 53 の形状を底辺から開口に向かって徐々に小さくなるようにしてもよい。このようにすることにより開封作業を容易なものとすることができる。なお、第 14 図に示すように、

蓋部 55 には止着テープ 58 を設けるようにしてもよい。

「他の開封部」

本発明においては、包装容器を開封したときに陰唇間パッドが飛び出さないようにするために、包装体を保持したときに内包される陰唇間パッドも保持できるように包装容器内に陰唇間パッドが内包されていればよい。例えば第 15 図の（a）に示す包装容器 63 のように、切り裂き部と非切り裂き部とが交互に配置されているミシン目を開封部 66 とすることができる。この場合には、第 15 図の（b）に示すように、指当て領域 67 に指をあて、反対側のミシン目に沿って包装容器 63 の一部をちぎり取ることにより開封部 66 を開封していくこととなる。

開封部 6 6 をミシン目により構成した場合は、切り裂き部を長さ 0.5 ～ 5 mm、幅を最大 3 mm の範囲とし、非切り裂き部を長さ 0.5 ～ 3 mm とすることが好ましい。これにより着用者の切り裂き方向が開封部から逸れないように誘導することができる。これにより、ゴミなどが開封部から個別包装体内部へと進入してくることも防止できる。

「指当て領域の指示」

本発明においては、着用者がどこに指を当てて包装容器を保持
20 して包装容器を開封すればよいかを明らかにするために、包装容
器の表面上にかかる位置を着用者にわかりやすくすることがで
きる。第16図及び第17図は、この指示状態を示す図である。

第 16 図に示す包装容器 73 においては、着用者の指を当てる位置及び方向を明らかにするように、模様 79 が施されている。

25 このため、第 17 図の (a) に示すように、着用者はかかる模様に従って親指を置いて包装体 61 を保持し、第 17 図の (b) に

示すように、包装容器 7 3 を開封することができるようになって
いる。

また、第 1 8 図に示す包装容器 8 3 に示すように、本体部 8 4
の一部にエンボス加工 8 9 を施し、着用者の指を当てる位置及び
5 方向を明らかにすることもできる。

なお、蓋部 7 5 及び 8 5 の輪郭は直線状となっているが、蓋部
の輪郭を略 M 状等とするとともに、模様やエンボス加工を施すよ
うにすることもできる。

〔開封のし易さ向上のための工夫〕

10 第 1 9 図及び第 2 0 図は、本発明に係る個別包装容器に施され
た開封のし易さ向上のための工夫を説明するための図であり、第
1 9 図は、本発明に係る開封のし易さ向上のための工夫がなされ
ている個別包装容器を示したものであり、第 2 0 図は、比較例を
示したものである。なお、これらの図において、1 の位が「1」
15 のものは包装体を示し、「3」のものは包装容器を示し、「4」の
ものは本体部を示し、「5」のものは蓋部を示し、「6」のものは
開封部を示す。また、符号の末尾が「4 a」のものは、蓋部「5」
と本体部「4」とが軽接合されている両端部の軽接合ラインを示
し、「5 a」のものは、蓋部「5」の軽接合されていない非接合
20 縁ラインを示す。更に、Q は、軽接合されている両端部の軽接合
ライン「4 a」と蓋部「5」の軽接合されていない非接合縁ライ
ン「5 a」との間に形成される、蓋部「5」が存在しない部分の
角度を示す。

まず、第 1 9 図の (A) に示されているように、本発明に係る
25 個別包装容器においては、個別包装容器 9 3 における蓋部 9 5 の
開封部 9 6 の部分が所定の角度を持つ「角」とされている。この

点、第20図の(A)の個別包装容器103の開封部106は、第19図の(A)に係る開封部96に相当する部分が単なる直線となっているが、これらを比較すると、第19図の(A)に示されている個別包装容器93のほうが、蓋部95の開封部96のところ
5 ころが摘まみ易く、本体部94に重畳している蓋部95を摘まみ上げるのが容易であるのは明らかである。

また、第19図の(B)に示されているように、本発明に係る個別包装容器においては、個別包装容器93における蓋部95の非接合縁ライン95aと、個別包装容器93における本体部94
10 と蓋部95とが軽接合されて形成されている軽接合ライン94aと、の間の蓋部95が存在しない部分の角度Qが鋭角である。そしてこの「鋭角」の状態は、第19図の(B)に示されているように、第19図の(A)に係る非接合縁ライン95aが湾曲して湾曲非接合縁ライン95a'となった場合でも保たれている。

15 この点、第20図の(A)に示されている個別包装容器103の角度Qは直角であり、第20図の(B)に示されている個別包装容器113の角度Qは、その本体部114の形状が台形形状であるがために、鈍角となっている。

ここで、第19図に示されている個別包装容器93及び93' 20 と第20図に示されている個別包装容器103及び113とを比較すると、第19図に示されている個別包装容器93及び93'のほうが、開封方向へ開封部を開封する際に、開封部を形成する包装材料の前後両端部の内側が鋭角となっているということとなるので、着用者が開封のために開封部を指で挟持したときに、
25 その指の開封方向への力を上記鋭角部分に十分に集中させることができることになる。そして、この結果として、一方向（開封

方向) への力に対して個別包装容器 9 3 及び 9 3' を容易に剥離させることができるということとなり、開封操作の迅速化・容易化を図ることができるようになる。

[陰唇間パッド]

5 <形状>

包装体に内包される陰唇間パッドの形状は、女性の陰唇に無理なく適合可能な形状であれば特に制限されるものではないが、女性の陰唇形状がほぼ左右対称で縦長であることから、実質的に縦長の形状であることが好ましく、楕円型・瓢箪型・雫型等の形態
10 であるのが望ましい。

また、陰唇に密着するための凸型等の隆起状物が存在する立体構造を有しても構わない。

更に、衣服側面において指挿入用口を形成するミニシート片を備えたものであってもよい。このような陰唇間パッドは、指の指
15 紋面が裏面側のシートに接するように指を挿入することで、感受性に富んだ指先で凹部である膣口位置を感知できるため、確実に膣口をふさぐように陰唇間パッドを装着することが可能となり、経血のモレを防止できる。

なお、上述のように、陰唇間パッドの形状を楕円型・瓢箪型・
20 雫型等とした場合には、包装容器の形状もそれに合わせて設定するのが好ましい。このようにすることにより包装体がコンパクトなものとなり、携帯中の利便性が高まる。

個別包装体内で内包される陰唇間パッドの状態は特に限定されるものではないが、携帯時のコンパクト性や実質的に縦長の陰
25 唇間製品を左右対称に陰唇内壁に密着させ経血流出を防止することを考慮すると、少なくとも陰唇間パッドの長手方向中心線に

ほぼ沿って折り畳まれた状態であることが好ましい。つまり個別包装体内に内包された状態の陰唇間パッドにおける好ましい見かけ長手寸法は80～150mmであり、実質的に好ましい見掛け短手寸法は10～30mmの範囲となる。

5 <サイズ>

陰唇間パッドのサイズは、長手寸法が50～200mm、好ましくは80～150mmの範囲が良く、身体側面からみた見かけ短手寸法は10～80mm好ましくは20～40mmの範囲が適当である。

- 10 凸型等の隆起状物が身体側面に形成されているのであれば、その隆起状物の高さは5～30mm、好ましくは10～20mmの範囲で設定される。この範囲未満であると、容易に陰唇間パッドの最大吸収容量を超えてしまうために経血が流出する危険性があり、一方でこの範囲より大きいと、併用するナプキン等のサイ
15 ズ寸法を超えてしまうばかりでなく、着用感を阻害する恐れがある。また、隆起状の高さ範囲より低いと、十分に陰唇へ密着することができず、一方この範囲より高いと陰唇の深さ以上となり、着用者に異物感を与える危険性がある。

- 包装体に内包される陰唇間パッドの状態は特に限定されるも
20 のではないが、携帯時のコンパクト性や、装着する際には縦長の陰唇間パッドを左右対称に陰唇内壁に密着させるようにして経血の流出を防止するようにすることを考慮すると、少なくとも陰唇間パッドの長手方向中心線にほぼ沿って折り畳まれた状態とするのが好ましい。このように内包しておくことにより、装着工
25 程をよりスムーズなものとすることができる。

包装体に内包された陰唇間パッドの好ましい見かけ上の長手

方向の寸法は 80 ～ 150 mm であり、実質的に好ましい見かけ上の短手方向の寸法は 10 ～ 30 mm の範囲となる。

<用途>

- 5 陰唇間パッドは、経血吸収用以外にも、膣口から排出される経血以外の分泌物（おりもの）吸収用として使用することができ、また、膣口と同様に陰唇間に位置する尿道口から排出される尿吸収用、即ち、尿失禁用としても使用することができる。

[包装容器の構成材料]

<シート>

- 10 包装容器に用いられるシートには、公知の物を用いることができる。例えば、厚さ 15 ～ 60 ミクロンのポリエチレン、ポリルロピレンポリエステル、ポリビニルアルコール、ポリ乳酸、ポリブチレンサクシネート、或いは不織布、紙、及びこれらのラミネート材料が挙げられる。具体的には、LDPE（低密度ポリエチレン）樹脂を主成分とした目付け 15 ～ 30 g / m² の範囲で調整されたフィルムが一般的に使用される。

- 好適なものとしては、液遮断性等を考慮し、不織布又は紙で内面側をフィルムで構成したラミネート材料が挙げられる。詳細には、スパンボンド・メルトブローン・スパンボンドが 6 ～ 10 g s m² ・ 5 ～ 20 g s m² ・ 6 ～ 10 g s m² 重量で構成される複合不織布の片側に、目付け 5 ～ 20 g / m² の範囲で調整された LDPE 樹脂を主体としたフィルムをラミネートした複合体を使用することができる。

- また、水洗適性を考慮した場合には、生分解性であるポリ乳酸、25 ホリブチルサクシネート、ポリ乳酸、ポリイソシアネート、澱粉等の不織布、フィルムから得られ、水溶性であればポリビニルア

ルコールを主体としたフィルムから得られ、並びにトイレットペーパーを使用することも可能である。具体的には、ポリビニルアルコールを目付け $5 \sim 10 \text{ g/m}^2$ の範囲で調整したフィルムと目付け $15 \sim 30 \text{ g/m}^2$ の範囲で調整される水解性紙とのラミネート体が挙げられる。

シートは、使用後の陰唇間パッドを廃棄処理する際に、陰唇間パッドを包み込んで廃棄処理するために用いることもできる。この場合には、陰唇間パッドに付着ないし吸収された経血が、シートから滲み出さないようにすること、すなわち、使用後の陰唇間パッドを包んだシートを掴んだ際に、指に経血が付着しないようにすることが好ましい。従って、液遮断性に富む材料、例えば、厚さ $15 \sim 60 \mu\text{m}$ 程度のポリエチレン、ポリプロピレン等からなるフィルム、あるいは前記フィルム素材を不織布や紙にラミネート加工したラミネート材を用いるとよい。

15 < 遮蔽性 >

シートは、陰唇間パッドに付着ないし吸収された経血の色を遮蔽できることが好ましい。このような遮蔽効果を得るためには、例えば、包装用シートに顔料 $5 \sim 40$ 重量%、樹脂 $10 \sim 20$ 重量%、溶剤 $40 \sim 85$ 重量%からなるインキをグラビア印刷などで印刷する、もしくは、予め包装用シート材料の原料樹脂に対して、顔料を $0.2 \sim 10$ 重量%の範囲で混入することで不透明化させたシート材料などを用いるとよい。あるいは包装用シートを染色してもよい。用いられる顔料や染料は白色でも、有色であっても良く、例として塩基性染料では C.I. ベイシックバイオレット 3 等、建染染料では C.I. バッドブルー 1 等、酸性染料では青色 1 号・青色 2 号・C.I. アッシュドレッド 51 等、直接染料では C.I.

ダイレクトイエロー 1 2 ・ C. I. ダイレクトオレンジ 2 6 ・ C. I. ダイ
レクトバイオレット 5 1 ・ C. I. ダイレクトブルー 1 ・ C. I. ダイ
レクトレッド 2 3 等、反応染料では C. I. リアクティブオレンジ 1
6 ・ C. I. リアクティブブラック 5 ・ C. I. リアクティブブルー 2
5 1 ・ C. I. リアクティブレッド 2 1 等、無機顔料では酸化チタン・
チタンイエロー・炭酸カルシウム・カーボンプラック・グンジョ
ウ等、有機顔料では黄色 4 0 1 号・だいたい色 2 0 4 号・青色 4
0 4 号・赤色 2 0 1 号・C. I. ピグメントイエロー 1 4 ・ C. I. ピグ
メントグリーン 7 ・ C. I. ピグメントバイオレット 1 9 ・ C. I. ピグ
10 メントブルー 2 7 ・ C. I. ピグメントレッド 1 6 6 等を単独もしくは
は所要に配合して用いることができる。

開封部を形成する包装用シートの重畳部は、再剥離可能であっ
て異物の混入が防止できるようにするのが好ましい。このような
ものとしては、止着テープで包装用シートの重なっている部分を
15 互いに覆うように配置するほか、少量の粘着剤を重なり方向に沿
って塗布する、エンボスにより接合する、エンボスによる接合域
の内側にミシン目を入れる等の公知技術により形成することが
できる。

< 止着テープ >

20 止着テープはフィルム層の片面に粘着材が塗布されたもの、又
は水洗性を考慮した場合はティッシュに片側に粘着層を塗布し
たもの等公知のものを使用することができ、限定されるものでは
ない。

[生菌数抑制処置]

25 本発明に係る包装容器、特に陰唇間パッドに接触する部分には、
生菌数を抑える処置がなされていれば、衛生面からなお好ましい。

生菌数を抑える処置としては、製造時における滅菌ないし殺菌処理、個別包装用包装容器の素材への抗菌素材の使用、などが挙げられる。

このような包装容器の具体的な例としては、目付 15 ～ 40 g / m² に調整されたティッシュと目付 20 ～ 50 g / m² のポリビニルアルコールとをラミネートし、ポリビニルアルコール側に 0.5 ～ 1 μm の範囲でシリコンが塗布された複合材料や、ポリ乳酸繊維を主体として目付 15 ～ 40 g / m² に調整されたスパンボンド不織布等が挙げられる。

10 [陰唇間パッドの構成材料]

<透水性シート>

陰唇間パッドの身体側に配置される透水性のシートには、液親水性であり、肌に刺激を与えない材料が使用される。このようなものとしては、メルトブローン、スパンボンド、ポイントボンド、スルーエアー、ポイントボンド、ニードルパンチ、湿式、湿式スパンレース、フォームフィルム等の製造方法から得られる不織布を単独又はこれらを複合した材料が挙げられる。

繊維状シートとしては、レーヨン、アセテート、コットン、パルプ又は合成樹脂を成分としたものを単独又は芯鞘構造を成すように複合したものを単独又は混合した繊維をシート化したものが挙げられる。

このような材料のうち、陰唇内面からの液移動性や活性剤による化学的刺激及び陰唇内壁との密接性を考慮すると、身体面側には繊維度 1.1 ～ 4.4 d t e x、繊維長 7 ～ 51 mm からなるレーヨンを合計目付に対して 40 ～ 80 % を積層、その衣服面側には繊維度 1.1 ～ 4.4 d t e x、繊維長 7 ～ 51 mm からなり合

計目付に対して 14 ～ 42 % のレーヨンと繊維度 1.1 ～ 4.4 d t e x、繊維長 7 ～ 51 m m からなり合計目付に対して 6 ～ 18 % の P E T を混合して積層し、2 層の合計目付が 20 ～ 60 g / m² となるよう積層した後、水流交絡により繊維同士を絡合させて乾燥させ、厚みを 0.13 ～ 0.50 m m の範囲で調整した
5 スパンレース不織布が好ましい。この際、衣服面側に P E T を混入する事により、透水性シートが湿潤状態になっても嵩を維持しやすいため陰唇内壁との密接性を保つことができる。

< 吸収体 >

10 陰唇間パッドに内包される吸収体に用いられる材料としては、パルプ、化学パルプ、レーヨン、アセテート、天然コットン、高分子吸収体、繊維状高分子吸収体、合成繊維を単独又はこれらを混合した物が使用できる。所要に配合した混合物をエンボス加工による圧着、ニードリングによる絡合などの公知技術によりシー
15 ト化させ、必要に応じて嵩を調整する、重ねる、折り重ねる等により適宜調整することができる。

シート状の材料としては、これらをシート状若しくは粉状に加工して使用してもよく、使用方法に限定されるものではない。

吸収体は、液体（体液）の吸収保持が可能であればよいが、嵩
20 高であり、型崩れし難く、化学的刺激が少ないもので、さらには陰唇への適合が高い柔軟性を有することが好ましい。具体的には、衣服面側には、繊維長 1 ～ 10 m m の範囲から選ばれるパルプを 50 ～ 150 g / m² 積層し、その身体面側には、繊維度 1.1 ～ 4.4 d t e x、繊維長 20 ～ 51 m m の範囲から選ばれるレー
25 ヨンを 60 ～ 90 %、天然コットンを 40 ～ 10 % の混合比で 150 ～ 250 g / m² 積層してドット状のエンボス加工によりシ

ート化させた、嵩 2 ～ 1 0 m m、好ましくは 3 ～ 5 m m に調整した不織布シートが挙げられる。これにより、身体面側から衣服面側へ液体を移行させやすく、吸収保持力が高まる。さらには、上記パルプ層の身体面側には繊維度 1 . 1 ～ 4 . 4 d t e x、繊維長 5 2 5 ～ 5 1 m m からなるレーヨンを目付 1 5 ～ 4 0 g / m ² に調整したメッシュスパンレース不織布を敷設する事により、身体面側から移行してきた液体をメッシュスパンレースにより拡散させ、パルプ層のほぼ全域に液体を誘導させる事ができるので、効率良くより多くの液体を吸収する事が可能である。

10 <不透水性シート>

陰唇間パッドに使用される不透水性のシートの材料としては、吸収体に保持された経血が陰唇間パッドの外へ漏れ出すことを防止できるものを使用することができる。また、透湿性素材とすることにより、装着時のムレを低減させることができ、装着時に 15 おける不快感を低減させることが可能となる。

このような材料としては、例えば、合成樹脂を膜化したシート状フィルム、無機フィラーを充填させて延伸処理を施すことにより得られる通気フィルム、紙、不織布とフィルムを複合したラミネート物、 1 0 ～ 3 0 % の開孔を有し孔径が 0 . 1 ～ 0 . 6 m m 20 の範囲で毛細管を吸収性体側に向かうように配置することにより得られる通気性液遮断シート、等を使用することができる。

更に、装着感を損なわない柔軟性を考慮した場合には、例えば、密度が 0 . 9 0 0 ～ 0 . 9 2 5 g / c m ³ の密度の低密度ポリエチレン (L D P E) 樹脂を主体とした目付 1 5 ～ 3 0 g / m ² の 25 範囲から得られるフィルムを使用することが好ましい。さらに好ましくは、陰唇間に装着されている際に、不透水性シート同士、

または併用するパッド、下着などに接触した時に、摩擦が高く陰唇間パッドが陰唇から脱落してしまう危険性を低下させるために、上記フィルムにエンボス加工をし、凸状の隆起部を設ける事で、接触率を低下させ摩擦抵抗値を少なくさせてあっても良い。

5 < 粘着剤 >

陰唇間パッドの身体側面には、陰唇間における嵌装状態をより強固なものとするために粘着剤を塗布することができる。このような肌接着用の粘着剤として使用可能なものとしては、水性高分子、架橋剤、可塑剤、水分から成るゲル粘着剤等が挙げられる。

10 より具体的には、水性高分子はゼラチン、ポリアクリル酸ソーダ、ポリビニルアルコール、カルボキシメチルセルロース等が挙げられ、架橋剤としては塩化カルシウム、硫酸マグネシウムのような水溶性金属塩が一般的に使用され、可塑剤としてはグリセリン、ワックス、パラフィンなどが挙げられる。

15 この他にも、感圧型ホットメルト粘着剤も粘着部を形成するための粘着剤として使用することができる。感圧型ホットメルト粘着剤は、スチレンーブタジエーンスチレンブロック共重合体（S B S）、スチレンーイソプレンーすチレンブロックー共重合体（S I S）、スチレンーエチレン・ブタジエーンスチレンブロック共
20 重合体（S E B S）、スチレンーエチレン・プロピレンーすチレンブロック共重合体（S E P S）のような合成ゴム樹脂を主たる成分とし、そこにテルペン樹脂、ロジン樹脂などの粘着付与剤とワックス等の可塑剤を熔融混合することによって得られる。

更には、シリコーン樹脂系粘着剤も使用することが可能である。

25 シリコーン樹脂系粘着剤としては、シリコーン樹脂、フッ素樹脂を主たる成分とし、白金、モリブデン、アンチモン等の金属塩等

の架橋剤、エステル系ワックス、グリセリン、マシンオイル等の可塑剤を混合して成る混合物などが挙げられる。

5 このように粘着部を形成するための粘着剤は多種類存在するが、塗布安定性を考慮すると、感圧型ホットメルト粘着剤を用いることが好ましい。塗布安定性が高い感圧型ホットメルト粘着剤としては、S E B Sを15～25質量%、可塑剤を15～35質量%、粘着付与剤を40～70質量%で熔融混合したものが挙げられる。この感圧型ホットメルト粘着剤については、酸化防止剤、
10 蛍光防止剤などを0.1～1.0質量%の範囲で添加してもよい。

10 <ミニシート片>

陰唇間パッドに指挿入用口を設けるために取り付けるミニシート片には、上述した透水性シートや不透水性シートと同様の材料を用いることもできるが、少なくとも短手方向に対して伸長性もしくは伸縮性を有するものを使用するのが好ましい。

15 このような材料をミニシート片に使用することにより、着用者の指先のサイズが設定された指挿入用口よりも大きい場合であっても、指のサイズに応じてミニシート片が少なくとも幅方向に伸びるため、着用者の指先サイズにかかわらず、本発明に係る陰唇間パッドを効果的に利用することができる。

20 元来伸縮性を有する材料としては、例えば、スチレンーブタジエンスチレンブロック共重合体（S B S）、スチレンーイソプレネー
25 スチレンブロック共重合体（S I S）、ウレタン等の合成ゴム、0.88～0.900 g / c m³の密度から選ばれる非晶性オレフィン系樹脂を原料としたフィルム、開孔フォームフィルム、ネット等が挙げられる。また、織布又は織布に合成ゴムを原料とした紡糸フィラメントを編み込んだ生地も使用できる。更

に、合成ゴムを主体としたスパンボンド不織布やメルトブローン不織布、発泡フォームシートも使用することができる。

着用中の柔軟な風合いを考慮した上で好適ものとしては、15
～40ミクロンの厚みに調整され、孔部面積が0.28～1.7
5 7 mm²、開孔率が40～70%の範囲で構成された、SEBS
を原料とした開孔フォームフィルムが挙げられる。

不織布としては、芯成分が高融点で鞘成分が低融点成分で構成
された熱収縮性を有するPE/PP、PE/PET、PP/PP
等の複合合成繊維を原材料とし、水流圧により繊維を交絡せしめ
10 たスパンレース不織布、再熱風処理を施して繊維のシュリンクを
促進させたシュリンクタイプ不織布、連続長繊維を熱シールによ
りシート化した後に縦方向へ強制的にテンタリングを施したい
わゆる伸長性スパンボンド等が挙げられる。

より具体的には、太さが1.1～4.4 d t e x の範囲で、長
15 さが7～51 mm の範囲で、芯成分が高融点で鞘成分が低融点成
分で構成された熱収縮性を有するPE/PP、PE/PET、P
PP/PP等の複合合成繊維を原材料とし、目付が10～60 g /
m²の範囲に調整されたシュリンクタイプ不織布が、柔軟でドレ
ープ感に富んだ好適な材料として挙げられる。そしてまた、上述
20 のような材料のラミネート物も使用することができる。

非伸長性の材料に伸長性を付与して使用する場合には、不織布
からは芯成分が高融点で鞘成分が低融点成分で構成された熱収
縮性を有するPE/PP、PE/PET、PP/PP等の複合合
成繊維を原材料とし、熱風により処理された嵩高感に富むスルー
25 エアー不織布、水流圧により繊維を交絡せしめたスパンレース不
織布、連続繊維を積層してシート化したスパンボンド不織布、ニ

ードルにより繊維同士を絡ませたニードルパンチ不織布、スパンボンドとメルトブローンを多層に積層してシート化したSMS不織布のほか、開孔フォームフィルム、PE樹脂を主成分としたフィルム等を単独又はこれらを複合して成る材料が挙げられる。

- 5 また、上述のような材料を雄雌の金型の間に嵌合させ、熱と温度と圧力により形状を型押しするコルゲート加工により伸長性を付与することも可能である。より具体的には、太さが1.1～4.4 d t e x の範囲、目付が10～60 g / m² の範囲で調整された複合合成繊維を主体としたスルーエアー不織布を、横方向
- 10 に伸長可能にコルゲート加工を施したものが挙げられる。コルゲート加工は少なくとも10%以上の伸長性があり、より好ましくは20～50%の範囲で伸長可能となるように雄雌の金型の配列が設けられたものであり、更に好ましくは30%伸長時の荷重が0.01～0.05 N / 25 m m の範囲の挙動を有するものが
- 15 望ましい（試験条件：テンシロン引張試験機にて、速度100 m m / m i n、チャック間隔100 m m）。なお、伸長性を付与する他の方法としては、切れ目線、円状に切り抜く等の方法も使用できる。

- 20 [生分解性・水分散性・水溶性を付与した包装容器・陰唇間パッドの構成]

< 包装容器 >

- 本発明に係る包装体を構成する包装容器の構成材料は、生分解性素材及び／又は水溶性素材及び／又は水分散性素材とすることもできる。包装容器の材料が水溶性素材又は水分散性素材である
- 25 場合には、この材料に包む使用済み陰唇間パッドも水溶性素材又は水分散性素材であれば、包んだ状態でそのままトイレ内に流

してしまうことができるため、着用者は包装容器の廃棄の煩わしさから開放されるとともに、トイレ内のゴミの低減をも図ることが可能となる。

このような包装容器の具体的な例としては、目付 15 ～ 40 g / m² に調整されたティッシュと目付 20 ～ 50 g / m² のポリビニルアルコールとをラミネートし、ポリビニルアルコール側に 0.5 ～ 1 μm の範囲でシリコーンが塗布された複合材料や、ポリ乳酸繊維を主体として目付 15 ～ 40 g / m² に調整されたспанボンド不織布等が挙げられる。

10 なお、本明細書において、「生分解性」とは、放線菌をはじめとする細菌、その他の微生物の存在下、自然界のプロセスに従って、嫌気性又は好気性条件下で物質が二酸化炭素又はメタン等のガス、水及びバイオマスに分解されることをいい、当該物質の生分解能（生分解速度、生分解度など）が、落ち葉等の自然に生じ
15 る材料、もしくは同一環境下で生分解性として一般に認識される合成ポリマーに匹敵することをいう。「水分散性」とは、水解性と同じ意味であって、使用時の限定された量の水分（経血）では影響はないものの、多量の水又は水流中では、繊維同士が、少なくとも一般のトイレ配管を詰まらせることがない程度の小断片
20 に容易に分散される性質のことをいう。「水溶性」とは、使用時の限定された量の水分（経血）では影響はないものの、多量の水又は水流中においては溶解する性質のことをいう。

＜陰唇間パッドの構成＞

上述のような包装容器に内包される陰唇間パッドも、生分解／
25 水溶性／水分散性であることが好ましい。このようにすることにより、陰唇間パッドを使用後にそのままトイレに流せるため、使

用済みの陰唇間パッドの廃棄を簡便かつ清潔に行なうことができる。そして、包装容器共々トイレに流すことが可能となるため、トイレ内のゴミの低減をより一層図ることもできるという効果も生じる。

5 〔透水性シート〕

透水性シートに使用できる材料としては、спанレース不織布のほか、繊維長を1～15mmの範囲から選択される湿式спанレース不織布を使用することができる。他の材料としては、ポリ乳酸、ポリブチレンサクシネートなどの加水分解による生分解性樹脂も使用することができる。例えば、ポリ乳酸を原料として作られる目付が20～60g/m²の範囲で調整されたメルトブローン不織布や目付が15～30g/m²の範囲、繊維太さが1.1～3.3d texの範囲で調整されたспанボンド不織布が挙げられる。なお、各不織布材料には開孔処理を施しても施さなくてもどちらでもよい。

他の材料としてはアセテート、合成繊維を単独又は積層体の連続繊維であるトウを目付50～300g/m²の範囲に調整し、繊維同士を解繊することにより使用することもできる。

〔吸収体〕

20 吸収体に使用できる材料としては、ニードリングから得られる不織布シートを使用することができる。なお、高分子吸収材料の生分解性等を考慮すると、カルボキシメチルセルロース繊維を使用するのが好ましい。

〔不透水性シート〕

25 不透水性のシートに使用できる材料としては、PVAフィルム、PVAフィルムの片面若しくは両面あるいは部分的にシリコー

ンなどにより撥水处理を施したフィルムシート、シリコーンを混合したPVAフィルム、澱粉フィルム、ポリ乳酸又はポリブチレンサクシネート等の加水分解による生分解性樹脂を原料としたフィルム及びティッシュ等とのラミネート紙を使用することができる。必要に応じて無機顔料を0.1～5%の範囲で混合して着色を施してもよい。

過湿下における防漏性の維持と浄化層への過度な負荷を与えないこと等をも考慮した場合には、ポリ乳酸を原料としたフィルムを10～20ミクロンの厚み範囲で目付15～20g/m²の範囲から選ばれるティッシュとラミネートし、更にラミネート時の貼り合せ面積率を5～40%の範囲で設けられたラミネート紙が好適である。

〔ミニシート片〕

ミニシート片に使用できる材料としては、ポリ乳酸、ポリブチレンサクシネート等の生分解性材料を原料としたフィルム、スパンボンド不織布、メルトブローン不織布等、又はPVA、CMC等の水溶性材料を原料としたフィルム、不織布等、並びにセルロース繊維、再生セルロース繊維等を主体とした水分散性ティッシュ、スパンレース不織布等が挙げられる。

好適には、生分解性材料を主体としたスパンボンド不織布又はメルトブローン不織布であって、太さが0.1～3.3d texの範囲、目付が15～40g/m²の範囲に調整されたシートであって、前途した機械的コルゲート加工を施すことにより得られる。

〔接合方法〕

接合方法としては、水溶性又は水膨潤性を有するポリビニルア

ルコール等による接着、ヒートシール、或いは水素結合による接合、等の接合方法を単独で若しくは適宜組み合わせる用いることができる。なお、軽接合させるためには、例えば蓋部と本体部の部分においては、女性の操作によって難なく剥離させることが可能なように接着剤の量やヒートシールの状態を適宜設定することになる。

産業上の利用の可能性

以上説明したように、本発明に係る陰唇間パッド個別包装容器
10 によれば、未使用の陰唇間パッドをコンパクトに包装していた個
別包装容器を開封して陰唇間パッドを取り出すという操作を簡
易に行うことができる。このため、清潔かつスムーズに陰唇間パ
ッドの装着作業を行なうことが可能となる。

請求の範囲

1. 陰唇間に挟み込んで装着される陰唇間パッドをそれぞれ個別に包装するための個別包装容器であって、

- 5 前記陰唇間パッドを収容する本体部と、この本体部の一部を覆い、その終辺部分が個別包装容器を開封するための開封部位を形成している蓋部と、を備え、
前記蓋部の形状は、個別包装容器の開封の際に当該個別包装容器が掴まれる場所が除かれた形状であり、着用者の指当てがなされる一定の領域が確保されるものであることを特徴とする個別包装容器。
- 10

2. 前記蓋部の前記終辺部分は、湾曲しているか、若しくは、個別包装容器の底辺に対して傾斜しているものであることを特徴とする請求の範囲第1項記載の個別包装容器。
- 15

3. 陰唇間に挟み込んで装着される陰唇間パッドをそれぞれ個別に包装するための個別包装容器であって、

- 前記陰唇間パッドを収容する本体部と、この本体部の一部を覆い、その終辺部分が個別包装容器を開封するための開封部位を形成している蓋部と、を備え、
- 20

前記本体部の表面には、個別包装容器の開封の際に当該個別包装容器を掴むための場所についての指示がなされているものであることを特徴とする個別包装容器。

25

4. 前記指示は視覚的、若しくは、触覚的なものであることを特

徴とする請求の範囲第3項記載の個別包装容器。

5. 陰唇間に挟み込んで装着される陰唇間パッドをそれぞれ個別に包装するための個別包装容器であって、

- 5 前記陰唇間パッドを収容する本体部と、この本体部の一部に重畳し、その終辺部分が個別包装容器を開封するための開封部位を形成している蓋部と、を備え、

少なくとも前記本体部の内面の表面には、微細な突起が施されていることを特徴とする個別包装容器。

10

6. 前記個別包装容器は、一連の包装用シートが巻かれたものから成り、

前記蓋部は、前記包装用シートの両端部と当該両端部の近傍同士が重畳されたことによって形成された重畳部からなり、

- 15 前記開封部位は前記包装用シートの一方端部からなり、
前記個別包装容器は、当該開封部位から前記重畳部の重畳状態が解かれることにより開封が行なわれるものであることを特徴とする請求の範囲第1項から第5項いずれか記載の個別包装容器。

- 20 7. 前記包装用シートは、開封部を形成する両端部以外の端部において重なった部分を再剥離可能に接合することにより前記本体部の両側部を形成しており、

- 前記本体部において、陰唇間パッドを封入するための開口部分と、その反対側において底辺部分と、を有し、当該底辺部分から
25 前記開口部分に向かうにつれて本体部の両側部間の寸法が徐々に小さくなっていくものであることを特徴とする請求の範囲第

6 項記載の個別包装容器。

8 . 前記個別包装容器は、前記蓋部と本体部とが接する部分において再シール可能な封止手段が設けられていることを特徴とする請求の範囲第 1 項から第 7 項いずれか記載の個別包装容器。

9 . 前記封止手段は、ドライエッジ部を備え、当該ドライエッジ部が前記個別包装容器の底辺よりも突出していることを特徴とする請求の範囲第 8 項記載の個別包装容器。

10

1 0 . 陰唇間に挟み込んで装着される陰唇間パッドと、この陰唇間パッドをそれぞれ個別に包装するための個別包装容器と、から成り、前記陰唇間パッドが前記個別包装容器に包装されたものから成る包装体であって、

15

前記個別包装容器内における陰唇間パッドが、前記個別包装容器を掴んだときに、前記陰唇間パッドの少なくとも一部が同時に掴まれる位置に配置されているものであることを特徴とする包装体。

20

1 1 . 前記個別包装容器は、請求の範囲第 1 項から第 9 項いずれか記載の個別包装容器であることを特徴とする請求の範囲第 1 0 項記載の包装体。

25

1 2 . 前記陰唇間パッド及び前記個別包装容器は長手方向と短手方向とを有する実質上縦長の形状を成すものであり、

当該個別包装容器の前記長手方向の寸法は、前記陰唇間パッド

の前記長手方向の寸法に対して105～130%の範囲のものであることを特徴とする請求の範囲第11項記載の包装体。

13. 前記個別包装容器の前記短手方向の寸法は、前記陰唇間パ
5 ッドの前記短手方向の寸法に対して105～130%の範囲のものあることを特徴とする請求の範囲第11項又は第12項記載の包装体。

14. 陰唇間に挟み込んで装着される陰唇間パッドをそれぞれ個
10 別に包装するための個別包装容器であって、

前記陰唇間パッドを収容する本体部と、この本体部の一部に重
疊し、その終辺部分が個別包装容器を開封するための開封部位を
形成している蓋部と、を備え、

前記蓋部と前記本体部とは、個別包装容器の開封方向の垂直方
15 向における両端部において互いに軽接合されており、当該蓋部の
形状は、前記開封部位の一部を頂点として前記本体部の両側部に向
かって広がる角状形状であることを特徴とする個別包装容器。

15. 陰唇間に挟み込んで装着される陰唇間パッドをそれぞれ個
20 別に包装するための個別包装容器であって、

前記陰唇間パッドを収容する本体部と、この本体部の一部に重
疊し、その終辺部分が個別包装容器を開封するための開封部位を
形成している蓋部と、を備え、

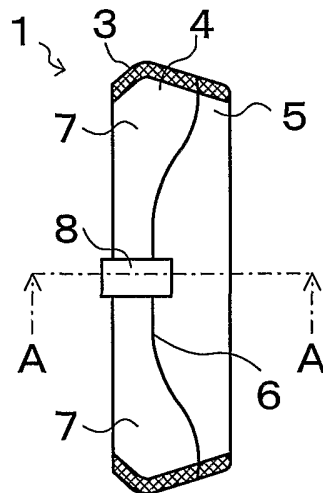
前記蓋部と前記本体部とは、個別包装容器の開封方向の垂直方
25 向における両端部において互いに軽接合されており、前記軽接合
されている両端部の軽接合ラインと前記蓋部の軽接合されてい

ない非接合縁ラインとの間に形成される角度であって、前記蓋部でない場所に形成される角度が鋭角であることを特徴とする個別包装容器。

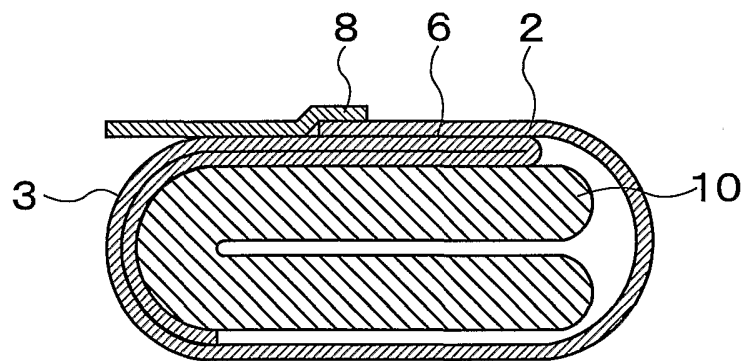
- 5 16. 前記軽接合されている両端部の軽接合ラインと前記蓋部の軽接合されていない非接合縁ラインとの間に形成される角度であって、前記蓋部でない場所に形成される角度が鋭角であることを特徴とする請求の範囲第14項記載の個別包装容器。

1/14

第1図

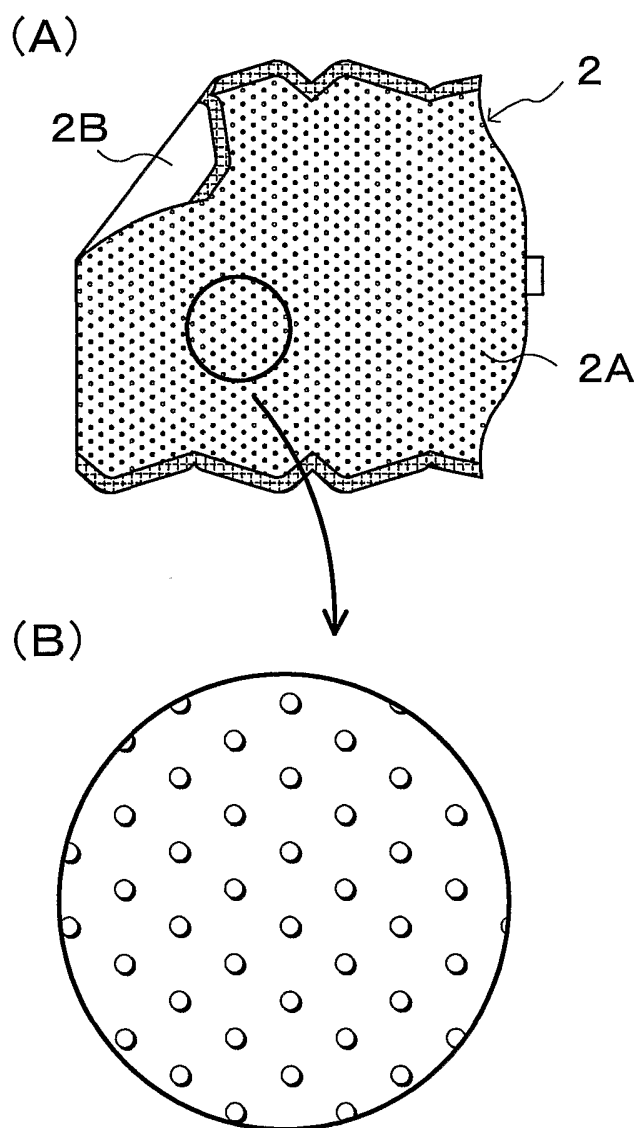


第2図

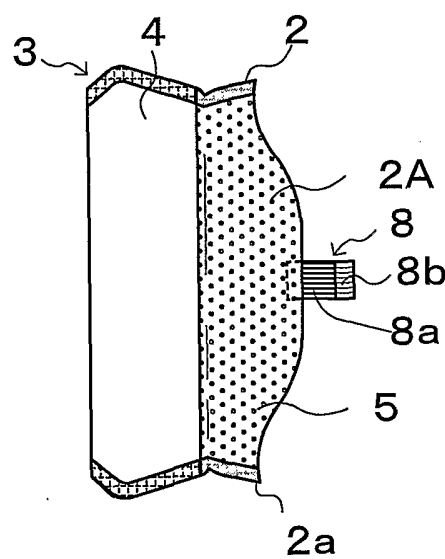


2/14

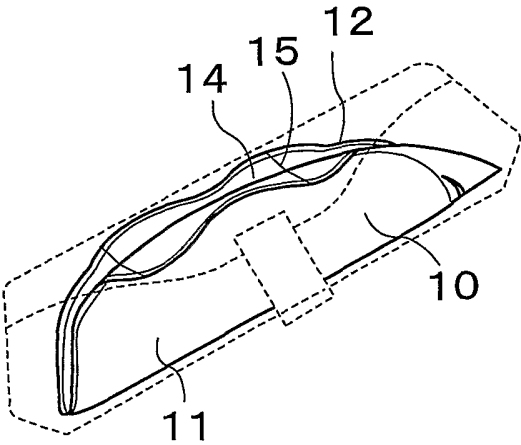
第3図



第4図

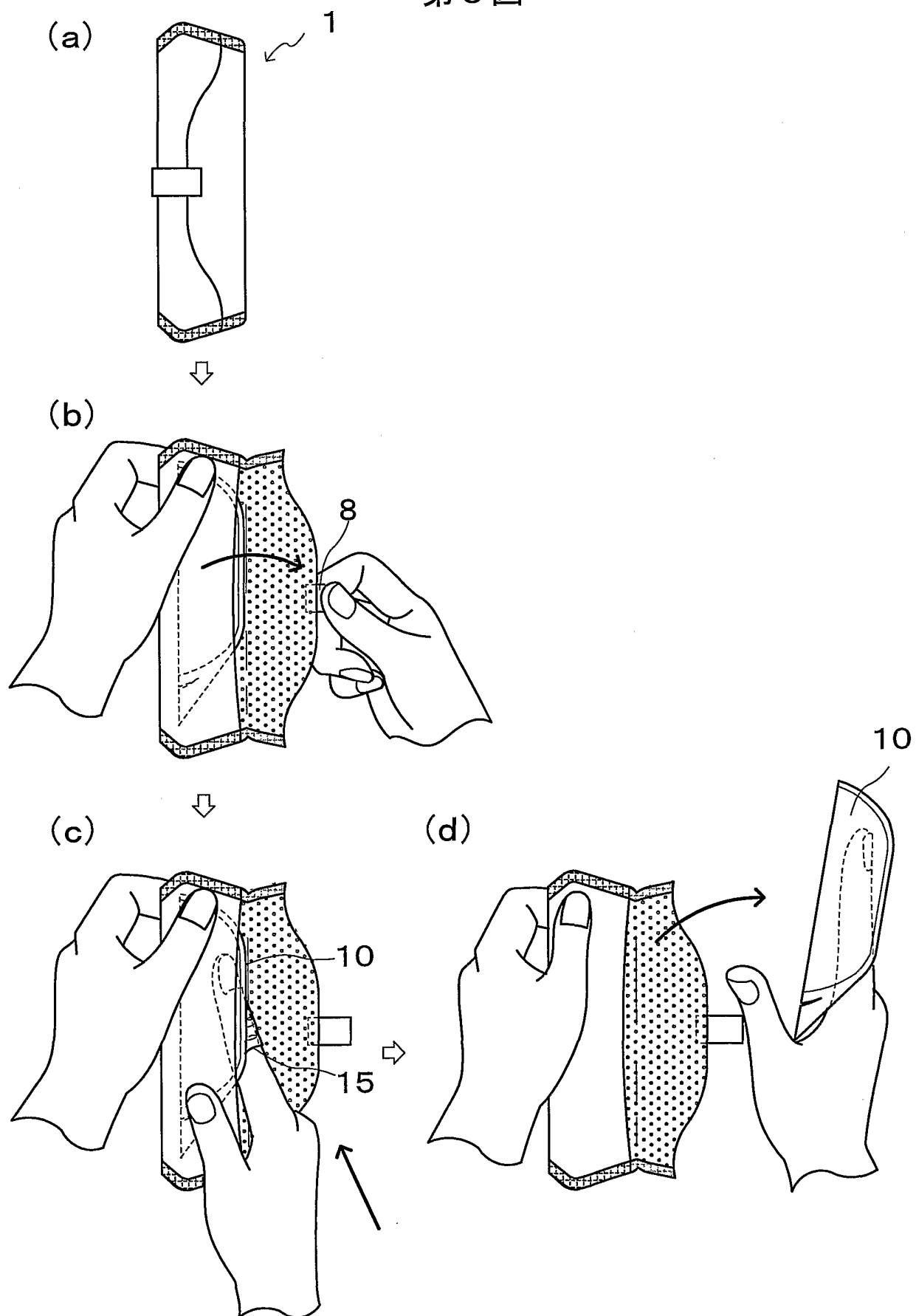


第5図

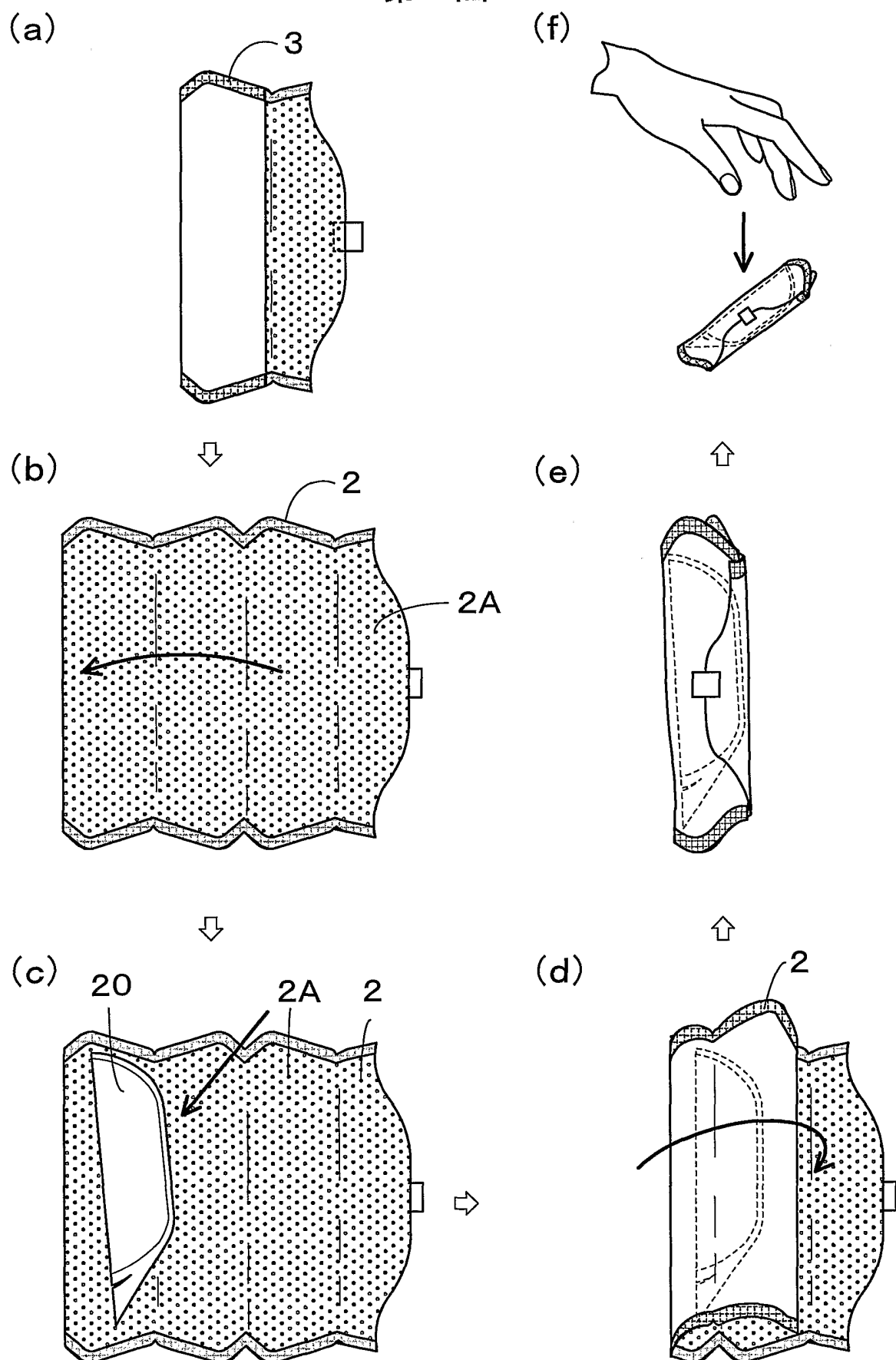


4/14

第6図

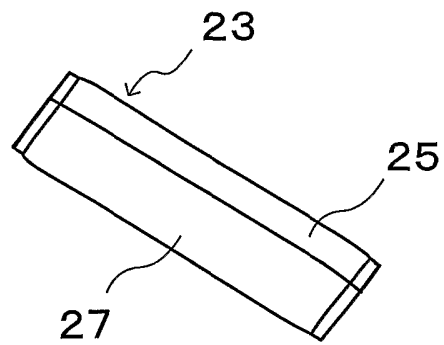


5/14
第7図

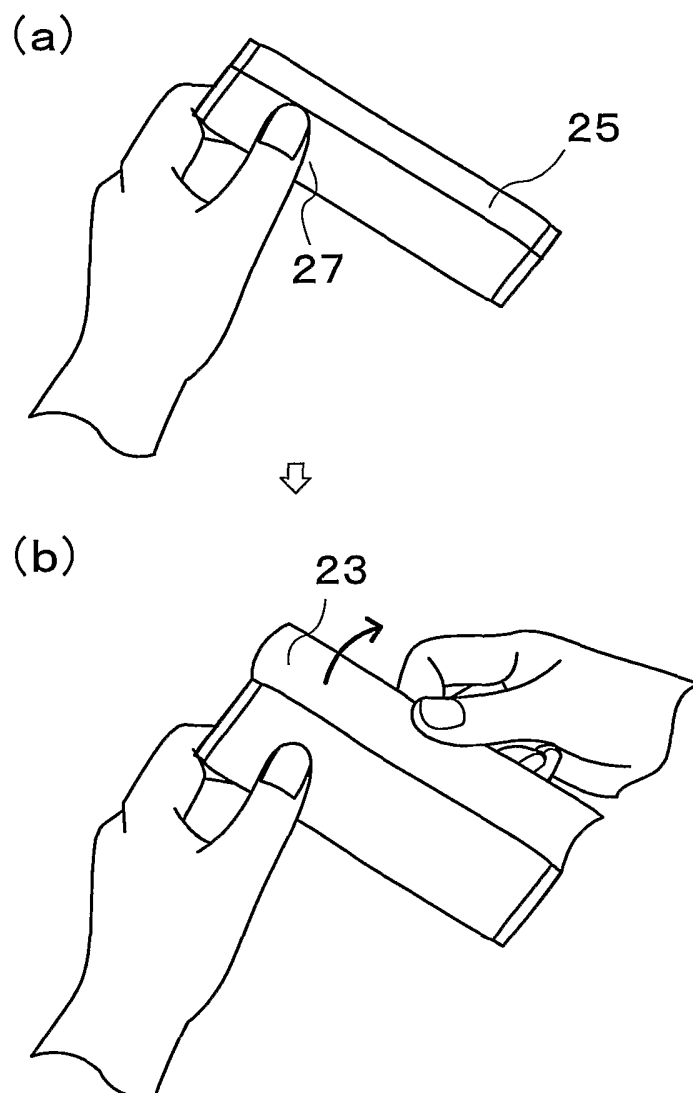


6/14

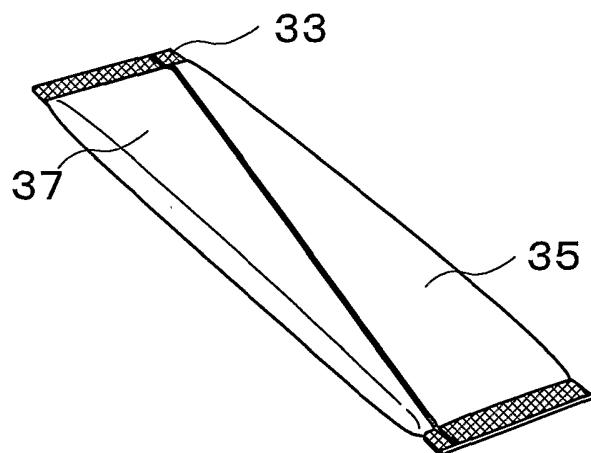
第8図



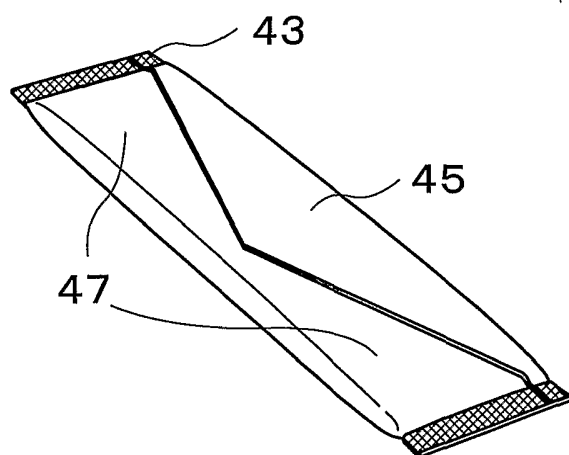
第9図



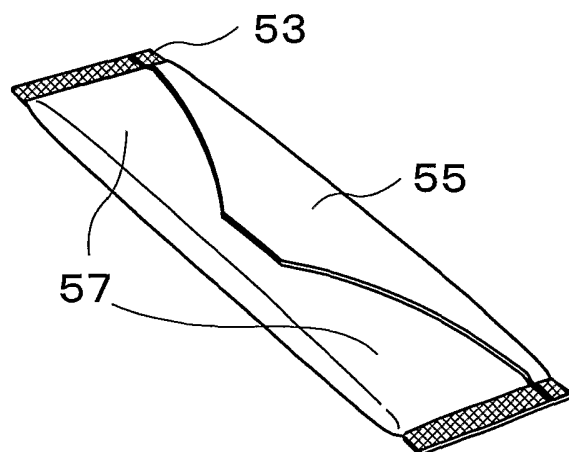
7/14
第10図



第11図

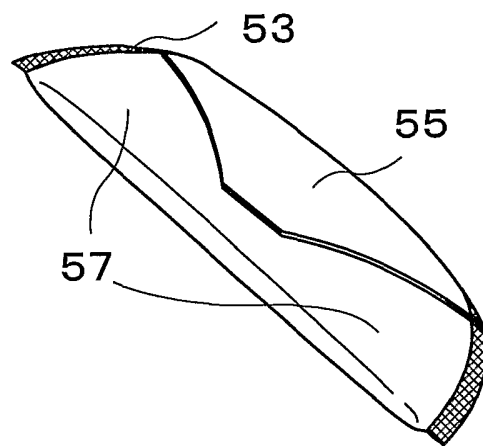


第12図

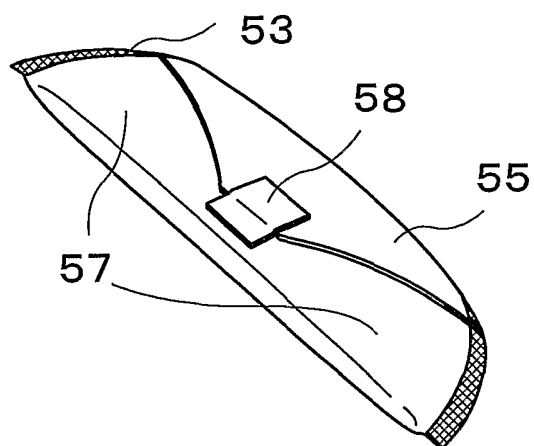


8/14

第13図

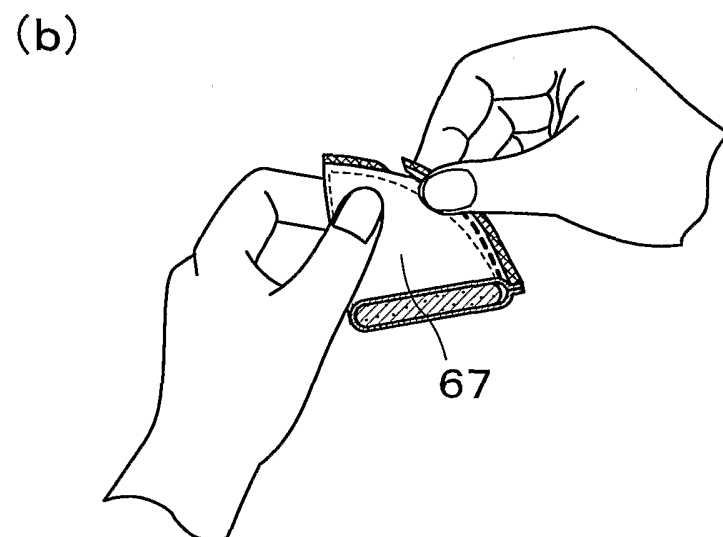
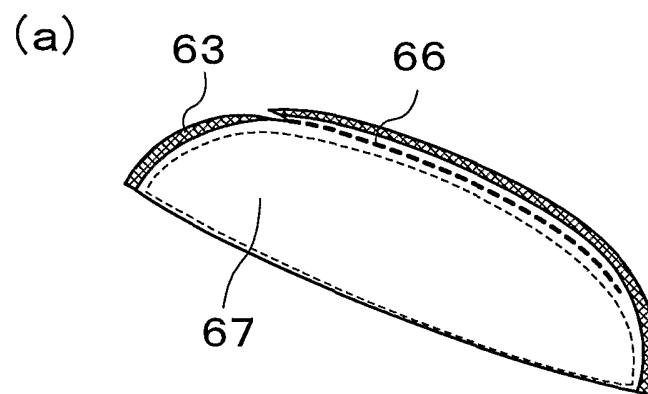


第14図



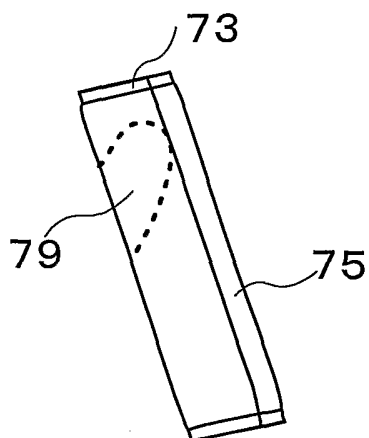
9/14

第 1 5 図



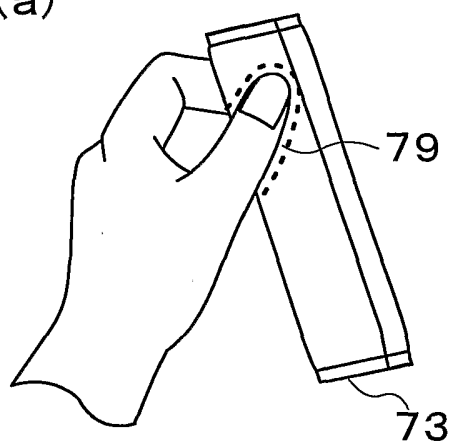
10/14

第 1 6 図

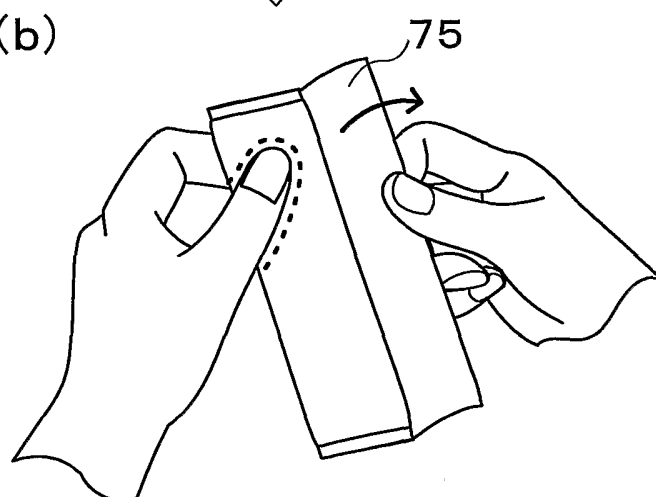


第 1 7 図

(a)

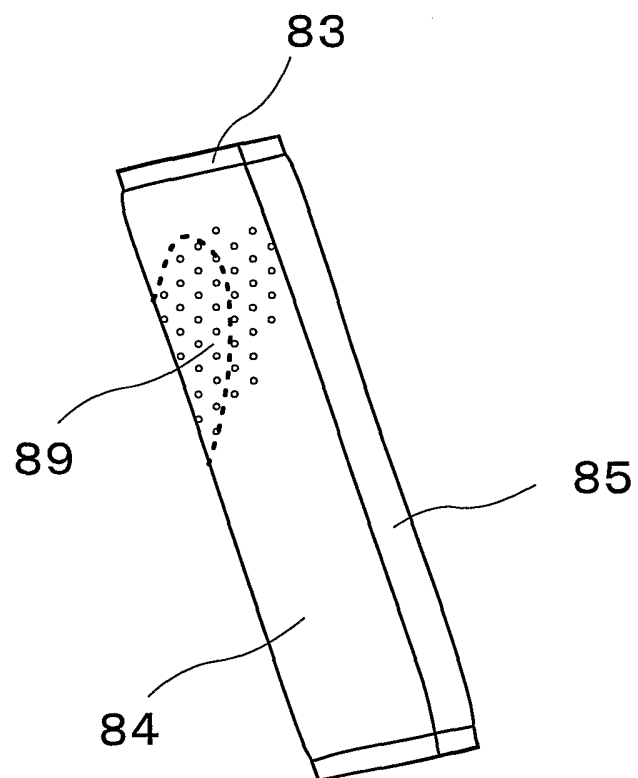


(b)



11/14

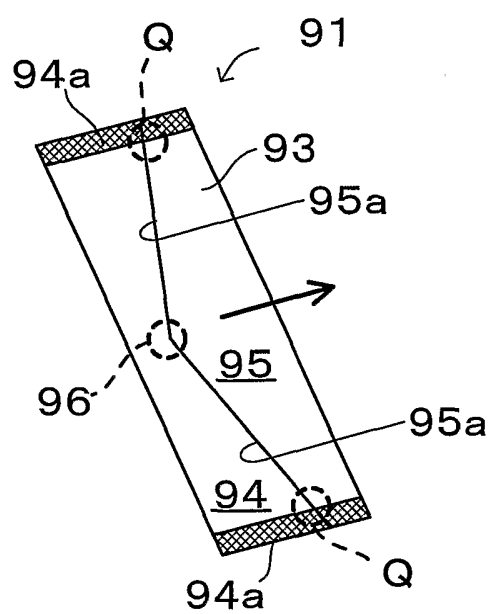
第 18 図



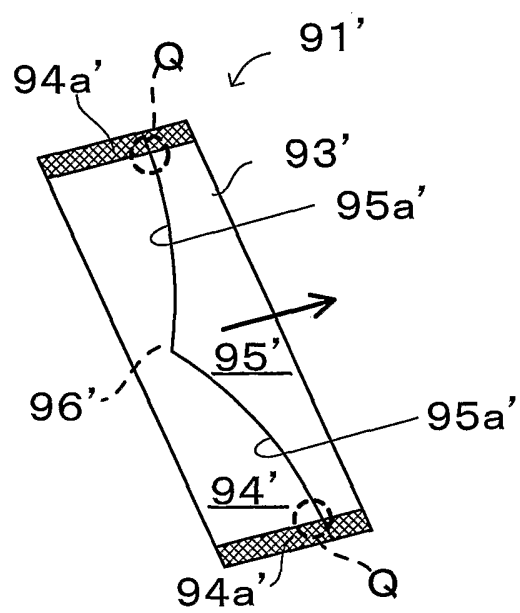
12/14

第 19 図

(A)



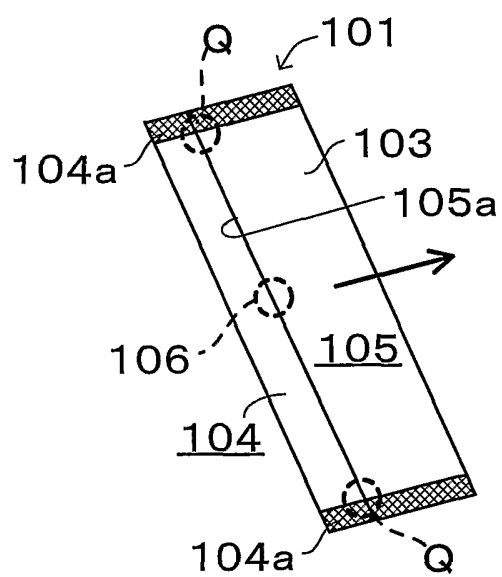
(B)



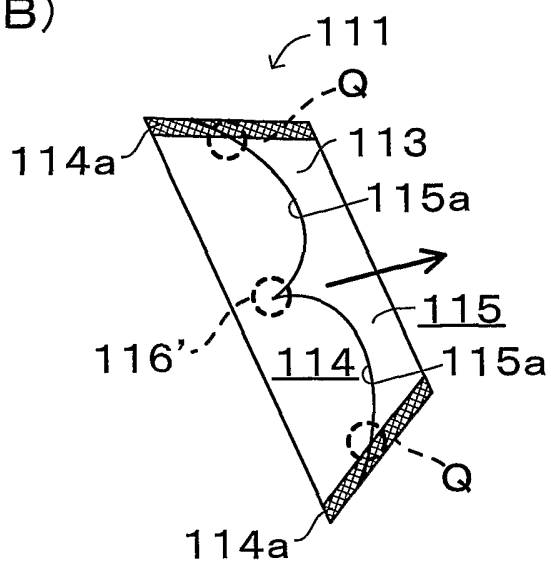
13/14

第20図

(A)



(B)

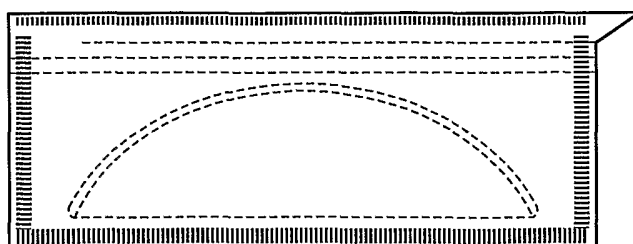


14/14

第 2 1 図



第 2 2 図



INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP02/04890

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER
Int.Cl.⁷ A61F13/15

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)
Int.Cl.⁷ A61F13/15

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched
Jitsuyo Shinan Koho 1922-1996 Jitsuyo Shinan Toroku Koho 1996-2002
Kokai Jitsuyo Shinan Koho 1971-2002 Toroku Jitsuyo Shinan Koho 1994-2002

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X A	US 6131736 A (The Procter and Gamble Co.), 17 October, 2000 (17.10.00), (Family: none)	10, 12, 13 1-9, 11, 14-16
X A	WO 99/26575 A1 (The Procter and Gamble Co.), 03 June, 1999 (03.06.99), & AU 9913163 A & AU 729151 B & HU 200100418 A2 & EP 1033956 A1 & EP 1033956 B1 & CZ 200001810 A3 & BR 9815614 A & JP 2001-523522 A & US 6299607 B	1, 2, 10, 12, 13 3-9, 11, 14-16

☒ Further documents are listed in the continuation of Box C. ☐ See patent family annex.

* Special categories of cited documents: "A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance "E" earlier document but published on or after the international filing date "L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified) "O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means "P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed	"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention "X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone "Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art "&" document member of the same patent family
--	---

Date of the actual completion of the international search
23 August, 2002 (23.08.02)

Date of mailing of the international search report
10 September, 2002 (10.09.02)

Name and mailing address of the ISA/
Japanese Patent Office

Authorized officer

Facsimile No.

Telephone No.

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP02/04890

C (Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
A	WO 98/29078 A1 (The Procter and Gamble Co.), 09 July, 1998 (09.07.98), & US 5762644 A & NO 9903281 A & CZ 9902400 A3 & EP 1011575 A1 & BR 9714847 A & HU 200003356 A2 & KR 2000069849 A & JP 2001-507597 A	1-16
A	WO 99/01096 A1 (The Procter and Gamble Co.), 14 January, 1999 (14.01.99), & EP 888762 A1 & EP 993290 A1 & ZA 9805730 A & AU 9877851 A & NO 9906584 A & CZ 9904764 A3 & BR 9810662 A & SK 9901893 A3 & MX 2000000040 A1 & MX 2000000047 A1 & MX 2000000234 A1 & CN 1268041 A & HU 200002647 A2 & HU 200004466 A2 & KR 2001014402 A & KR 2001014429 A & KR 2001014435 A & JP 2001-509404 A	1-16
A	JP 11-104167 A (Shiseido Co., Ltd.), 20 April, 1999 (20.04.99), (Family: none)	1-16
A	WO 99/26575 A1 (The Procter and Gamble Co.), 03 June, 1999 (03.06.99), & AU 9913163 A & AU 729151 B & HU 200100418 A2 & EP 1033956 A1 & EP 1033956 B1 & CZ 200001810 A3 & BR 9815614 A & JP 2001-523522 A & US 6299607 B1	1-16

A. 発明の属する分野の分類 (国際特許分類 (IPC))

Int. Cl⁷ A61F13/15

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料 (国際特許分類 (IPC))

Int. Cl⁷ A61F13/15

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報	1922-1996年
日本国公開実用新案公報	1971-2002年
日本国実用新案登録公報	1996-2002年
日本国登録実用新案公報	1994-2002年

国際調査で使用した電子データベース (データベースの名称、調査に使用した用語)

C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
X A	US 6131736 A (THE PROCTER & GAMBLE COMPANY) 2000. 10. 17 (No family)	10, 12, 13 1-9, 11, 14-16
X A	WO 99/26575 A1 (THE PROCTER & GAMBLE COMPANY) 1999. 06. 03 & AU 9913163 A & AU 729151 B & HU 200100418 A2 & EP 1033956 A1 & EP 1033956 B1 & CZ 200001810 A3 & BR 9815614 A & JP 2001-523522 A & US 6299607 B	1, 2, 10, 12, 13 3-9, 11, 14-16

☒ C欄の続きにも文献が列挙されている。☐ パテントファミリーに関する別紙を参照。

* 引用文献のカテゴリー

「A」 特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの

「E」 国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの

「L」 優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献 (理由を付す)

「O」 口頭による開示、使用、展示等に言及する文献

「P」 国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

の日の後に公表された文献

「T」 国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの

「X」 特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの

「Y」 特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの

「&」 同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日

23. 08. 02

国際調査報告の発送日

10.09.02

国際調査機関の名称及びあて先

日本国特許庁 (ISA/JP)

郵便番号100-8915

東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官 (権限のある職員)

内田 俊生



4C

8214

電話番号 03-3581-1101 内線 3452

C (続き) . 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
A	WO 98/29078 A1 (THE PROCTER & GAMBLE COMPANY) 1998.07.09 & US 5762644 A & NO 9903281 A & CZ 9902400 A3 & EP 1011575 A1 & BR 9714847 A & HU 200003356 A2 & KR 2000069849 A & JP 2001-507597 A	1-16
A	WO 99/01096 A1 (THE PROCTER & GAMBLE COMPANY) 1999.01.14 & EP 888762 A1 & EP 993290 A1 & ZA 9805730 A & AU 9877851 A & NO 9906584 A & CZ 9904764 A3 & BR 9810662 A & SK 9901893 A3 & MX 2000000040 A1 & MX 2000000047 A1 & MX 2000000234 A1 & CN 1268041 A & HU 200002647 A2 & HU 200004466 A2 & KR 2001014402 A & KR 2001014429 A & KR 2001014435 A & JP 2001-509404 A	1-16
A	JP 11-104167 A (株式会社資生堂) 1999.04.20 (ファミリーなし)	1-16
A	WO 99/26575 A1 (THE PROCTER & GAMBLE COMPANY) 1999.06.03 & AU 9913163 A & AU 729151 B & HU 200100418 A2 & EP 1033956 A1 & EP 1033956 B1 & CZ 200001810 A3 & BR 9815614 A & JP 2001-523522 A & US 6299607 B1	1-16